

大学等名	高知大学
プログラム名	高知大学医学部 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 応用基礎レベル
適用モデルカリキュラム	改訂版モデルカリキュラム(2024年2月22日改訂)

応用基礎レベルのプログラムを構成する授業科目について

① 申請単位	学部・学科単位のプログラム
② 既認定プログラムとの関係	
③ 教育プログラムの修了要件	
④ 対象となる学部・学科名称	医学部
⑤ プログラム履修必須の有無	令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定
⑥ 修了要件	リテラシーレベルのプログラムを履修することが前提であり、加えて医学部医学科においては、令和8年度以降入学生は4科目6単位、令和7年度入学生は6科目8単位の必修科目の習得、医学部看護学科においては4科目7単位の必修科目の修得をもって修了とする。 医学科対象科目は、令和8年度以降入学生は、EBMI、EBMII、基礎社会医学、データ解析プログラミング入門、令和7年度入学生は、数理科学I、数理科学II、EBMI、EBMII、基礎社会医学、データ解析プログラミング入門。 看護学科対象科目は、保健統計学、看護データサイエンス、データ解析プログラミング入門、データサイエンス入門（リテラシーレベルプログラム）。

⑦プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数	4	科目
	6	単位

[illegible]

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数値、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	順列、組合せ、集合、ベン図、条件付き確率「EBMI(旧)」(2回)「EBMI(新)」(8回)「保健統計学」(1回) 代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「EBMI(旧)」(1回)「EBMI(新)」(7回) 「データサイエンス入門」(6回) 相関係数、相関関係と因果関係「EBMI(旧)」(12回)「EBMI(新)」(13回)「保健統計学」(10回) 名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度「EBMI(旧)」(13回)「EBMI(新)」(13回) 確率分布、正規分布、独立同一分布「EBMI(旧)」(3回)「EBMI(新)」(7回)「データサイエンス入門」(10回) ベクトルと行列「数理科学I」(1回)「EBMI(新)」(4,5回)「看護データサイエンス」(1,5回) ベクトルの演算、ベクトルの和とスカラー倍、内積「数理科学I」(1-5回)「EBMI(新)」(4,5回) 「看護データサイエンス」(1,5回) 行列の演算、行列の和とスカラー倍、行列の積「数理科学I」(1-5回)「EBMI(新)」(5,6回) 「看護データサイエンス」(1,5回) 逆行列「数理科学I」(5回)「EBMI(新)」(6回)「看護データサイエンス」(1回) 多項式関数、指数関数、対数関数「数理科学I」(1回)「EBMI(新)」(1回)「看護データサイエンス」(6回) 関数の傾きと微分の関係、積分と面積の関係「数理科学II」(1-5回)「EBMI(新)」(2,3回) 「看護データサイエンス」(3,7回) 1変数関数の微分法、積分法「数理科学II」(1-5回)「EBMI(新)」(2,3回)「看護データサイエンス」(3,7回)
	1-7	並び替え(ソート)、探索(サーチ)「データ解析プログラミング入門」(11-13回)「データサイエンス入門」(13回)
	2-2	コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「EBMI(旧)」(8回)「EBMI(新)」(8回) 配列、木構造(ツリー)、グラフ「データ解析プログラミング入門」(2回)
	2-7	文字型、整数型、浮動小数点型「データ解析プログラミング入門」(2回) 変数、代入、四則演算、論理演算「データ解析プログラミング入門」(2回)
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	データ駆動型社会、Society 5.0「データサイエンス入門」(1回) データサイエンス活用事例(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など)「EBMI(旧)」(8,9回)「EBMI(新)」(8,9回)「基礎社会医学(旧)」(4,8,10,11回)「基礎社会医学(新)」(1,3,4,11,13回)「看護データサイエンス」(5-8回)「データサイエンス入門」(4回)
	1-2	データを活用した新しいビジネスモデル「基礎社会医学(旧)」(4回)「基礎社会医学」 データ分析の進め方、仮説検証サイクル「EBMI(旧)」(1回)「EBMI(新)」(7回) 様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスターリングなど)「EBMI(旧)」(9回)「EBMI(新)」(9回)「データ解析プログラミング入門」(8,11-13回)「データサイエンス入門」(3回) データの収集、加工、分割/統合「データサイエンス入門」(5回)
	2-1	ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「EBMI(旧)」(8回)「EBMI(新)」(8回)「データサイエンス入門」(1回) ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス「EBMI(旧)」(8回)「EBMI(新)」(8回) ビッグデータ活用事例「EBMI(旧)」(8回)「EBMI(新)」(8回)「基礎社会医学(旧)」(13回)「基礎社会医学(新)」(12回)
	3-1	AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「データサイエンス入門」(11回) AI技術の活用領域の広がり(教育、芸術、流通、製造、金融、インフラ、公共、ヘルスケアなど)「EBMI(旧)」(9回)「EBMI(新)」(8回)
	3-2	AI倫理、AIの社会的受容性「データサイエンス入門」(12回) プライバシー保護、個人情報の取り扱い「EBMI(旧)」(5,6回)「EBMI(新)」(5,6回)「データサイエンス入門」(12回)
	3-3	実世界で進む機械学習の応用と発展(需要予測、異常検知、商品推薦など)「EBMI(旧)」(9回)「EBMI(新)」(9回)「データサイエンス入門」(4回) 機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「データ解析プログラミング入門」(11回)
	3-4	実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)「EBMI(旧)」(9回)「EBMI(新)」(9回) ニューラルネットワークの原理「データ解析プログラミング入門」(14回)「データサイエンス入門」(14回) ディープニューラルネットワーク(DNN)「データ解析プログラミング入門」(15回)「データサイエンス入門」(14回)「EBMI(旧)」(9回)「EBMI(新)」(9回) 転移学習「EBMI(旧)」(9回)「EBMI(新)」(9回)
	3-5	実世界で進む生成AIの応用と革新(対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など)「データサイエンス入門」(15回)「EBMI(旧)」(9回)「EBMI(新)」(9回) 基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「EBMI(旧)」(9回)「EBMI(新)」(9回) 生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)「EBMI(旧)」(9回)「EBMI(新)」(9回) ファインチューニング「EBMI(旧)」(9回)「EBMI(新)」(9回)
	3-10	AIの学習と推論、評価、再学習「EBMI(旧)」(8,9回)「EBMI(新)」(8,9回)「データ解析プログラミング入門」(14回) AIの開発環境と実行環境「EBMI(旧)」(8,9回)「EBMI(新)」(8,9回)「データ解析プログラミング入門」(15回)
(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I	並び替え(ソート)、探索(サーチ)「データ解析プログラミング入門」(11-13回) 配列、木構造(ツリー)、グラフ「データ解析プログラミング入門」(2回) 文字型、整数型、浮動小数点型「データ解析プログラミング入門」(2回) 変数、代入、四則演算、論理演算「データ解析プログラミング入門」(2回)
	II	様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスターリングなど)「データ解析プログラミング入門」(8,11-13回) 機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「データ解析プログラミング入門」(11回) ニューラルネットワークの原理「データ解析プログラミング入門」(14回) AIの学習と推論、評価、再学習「データ解析プログラミング入門」(14回) AIの開発環境と実行環境「データ解析プログラミング入門」(15回)

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

医療DXを推進する人材を育成するため、数理モデル、AI、データサイエンス技術の理論についての体系的な基礎知識と基礎的なプログラミング技術の習得、及び医療分野におけるAIやデータサイエンス技術の応用事例や将来展望に関する知識習得を目的とする。

(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	633	人
(非常勤)	242	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

14	人
----	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	井上 啓史
(役職名)	医学部長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	医学部学務委員会
------	----------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	高知大学医学部学務委員会規則
------	----------------

⑥ 体制の目的

- (1) 医学部学生の進級及び卒業の認定に関する事項
- (2) 医学部学生の休学、復学、退学、転学、留学及び除籍に関する事項
- (3) 医学部特別聴講学生、外国人留学生、科目等履修生及び研究生に関する事項
- (4) 医学部学生の賞罰に関する事項
- (5) 医学部学生の生活指導に関する事項
- (6) 医学部学生の表彰・懲戒(他の規則等に定める事項を除く。)に関する事項
- (7) 医学部学生の福利厚生に関する事項
- (8) 医学部学生の保健管理に関する事項
- (9) 医学部学生の課外活動に関する事項
- (10) 医学部課外活動施設及び学生の福利厚生施設に関する事項
- (11) 医学部学生団体に関する事項
- (12) 医学部学生の進路及び就職に関する事項
- (13) 教員の能力開発(FD)の企画及び実施に関する事項
- (14) その他医学部学生の教務、学生生活及び就職に関し必要な事項に関する事項
であり、本教育プログラムを改善・進化させることに関わる項目は(14)である。

⑦ 具体的な構成員

- 委員長 関 安孝(医学科/生体分子構造学 教授)
- 副委員長 藤田 博一(医学教育創造センター長/医学教育創造センター 教授)
- 委員 藤本 新平(医学科長/内分泌代謝・腎臓内科学 教授)
- 委員 大坂 京子(看護学科長/臨床看護学 教授)
- 委員 山口 正洋(医学科/生理学 教授)
- 委員 安田 誠史(医学科/医療学 教授)
- 委員 松下 拓也(医学科/脳神経内科学 教授)
- 委員 中井 浩三(医学科/皮膚科学 教授)
- 委員 加部 泰明(医学科/生化学 教授)
- 委員 多田 邦子(看護学科/基礎看護学 教授)
- 委員 沖中 由美(看護学科/臨床看護学 教授)
- 委員 数井 裕光(保健管理センター医学部分室長/神経精神科学 教授)
- 委員 永野 志歩(保健管理センター医学部分室/保健管理センター 講師)
- 委員 畠山 豊(医学情報センター長/医学情報センター教授)
- 委員 北岡 裕章(医療人育成支援センター長/老年病・循環器内科学 教授)
- 委員 阿部 真吾(医学部学生)
- 委員 中尾 晋太郎(医学部学生)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	0%
令和8年度予定	1%
令和9年度予定	2%
令和10年度予定	3%
令和11年度予定	4%

具体的な計画

医学科においては「データ解析プログラミング入門」以外は必修の授業科目であり、看護学科においては「データ解析プログラミング入門」「看護データサイエンス」以外は必修の授業科目となっている。

「データ解析プログラミング入門」「看護データサイエンス」は、1年次に受講することを想定しているため、入学時のオリエンテーションにて本プログラムの説明及び受講を勧める説明を行う。

毎年講義のアンケートを実施し、学生の興味がある医学分野についての応用事例説明が可能か検討を行う。これらの活動を通じて毎年1年次の学生が10人程度履修する状況を目指す。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「データ解析プログラミング入門」は全学共通の講義となるように体制を整えている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

入学時のオリエンテーションやオムニバス形式の必修科目での本プログラムの意義を説明している。また、本学部WEBからも本プログラムの内容について情報が得られるように体制を整えている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

「データ解析プログラミング入門」「看護データサイエンス」以外は全て必修の科目として用意されている。「データ解析プログラミング入門」「看護データサイエンス」は卒業要件に含まれる選択、選択必修の科目として用意されている。また、全ての講義時間は重複しておらず、想定している年次での取得が可能な状況として設定されている。また、本プログラムに限らず、本学では各科目担当者のオフィスアワー設定や学生へのアドバイザー教員配置などのサポート体制を整えており、本プログラムを構成する担当教員と連携して、問題点を解決する支援を実施することができる。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業担当教員毎にオフィスアワーを設定しており、授業時間外に質問を受け付ける体制が整っている。授業時間内においては、当然質問等は受け付けられている。なお、本学では学生全員にアドバイザー教員が配置されており、万が一学習が困難という状況が発生した場合はアドバイザー教員経由で情報が共有される体制が整っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

(責任者名) 関 安孝

(役職名) 医学部 学務委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		本プログラムの履修・修得状況を含む、学部専門科目の履修、単位修得状況、成績分布は、医学部学務委員会において報告され、成績分布の偏りがある科目についてはその理由等が分析されている。分析結果は、大学全体の学士課程運営委員会に報告される。これらの調査、分析の過程において、成績分布に偏りのある授業の担当者は学務委員会委員から調査を受けることになる。
学修成果		プログラム履修状況と同様に、学習成果が反映される成績分布は、医学部学務委員会で分析が行われる。これにより、授業内容の学生の理解度を把握することができ、その結果を本教育プログラムの評価・改善に活用する。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度		授業担当者は、授業に対する学生アンケートを行うことで改善に役立てることなど、担当授業の授業改善のための取り組みを行うこととされている。これらの取り組みを通じて、履修者の理解度評価や個別意見などをフィードバックすることによって授業が改善される。さらに1年次の学生に対し、本プログラムに関するアンケートを実施し、次年度の履修推奨に活用する。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度		前項で記載した1年次の学生に対し1学期終了時アンケートで、本プログラムに関するアンケートを行っている。これらを取りまとめた結果は、年度当初のオリエンテーションにより学生への履修推奨や授業改善に活用される。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況		本プログラムのリテラシーレベルに関しては、令和4年8月に全学的に既に認定を受けた。また、令和6年度8月に理工学部において令和7年度8月に農林海洋科学部において応用基礎レベルが認定された。同レベルに関しては、医学が令和7年度より既にプログラムを開設し、令和7年度中の先行認定を目指している(本申請)。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムの開始は令和7年度であり、最初のプログラム修了者は令和12年度に卒業予定であるため、現時点で教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価は不明である。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	医学部の各委員会の外部委員に本プログラムの内容を説明し、意義や手法についての意見聴取のアンケートを実施した。その結果、本プログラムの重要性を踏まえて、論理的思考やディスカッション能力の育成、継続的な外部評価が望まれていることが示されている。
	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	既の実診療において導入されている数理・データサイエンス・AIに関する分野の紹介を通じ、「学ぶ楽しさ」を理解してもらう講義内容を実施している。アンケート結果を通じて、紹介する内容の検討を行う予定である。また、実診療において導入されている現実を踏まえて、医療従事者として基本技術の理解が必要であることの説明を通じて「学ぶことの意義」を理解してもらう講義内容を実施している。
	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	本学の専門科目の成績分布は、学期毎に学部毎に設けられている委員会(医学部では学務委員会)によって追跡されており、内容・水準が低下して成績上位者が異常に多い科目、分かりづらく履修登録者数に比べて単位修得者が少ない科目については、その理由等の確認が行われる態勢が構築されている。これにより、水準を維持し、かつ「分かりやすい」授業を継続的に提供する仕組みになっている。 データサイエンスに関連する社会の動向は本学データサイエンスセンターにも常時把握され、リテラシーレベル教育プログラムの「データサイエンス入門」において生成AIも取り扱われ内容の更新が検討されている。本応用基礎レベルプログラムにおいては、「EBMⅡ」において、医学分野における最新の動向を踏まえた内容に順次変更している。

年度	2026
授業コード	51108
授業科目	EBMI
英文科目名	Evidence-Based Medicine I
講義副題	
開講責任部署	医学部 医学科
講義区分	演習
単位数	2.0
時間割	2学期: 金曜日 3 時限, 2学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	2学期
履修開始年次	1
メディア授業科目	
区分1	
区分2	
履修における注意点	
資格等	

ナンバリングコード
41-2131-21

担当教員

◎は代表教員です。

氏名	所属
◎ 島山 豊	医学部
奥原 義保	医学部
野村 與珠亜一国	医学部
兵頭 勇己	医学部
三谷 慶太	医学部

授業実施方法	主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン
--------	-------------------------

副題【SUBHEADING】

【テーマ（日本語）】(IN JAPANESE)	EBMの実践において重要な医療統計学の基礎、Rという簡単なコンピュータ言語を用いた実践もできるようにする
-------------------------	--

授業の目的【COURSE AIMS】	微分積分、線形代数について基本的な事項について学ぶ。 記述統計、推測統計に関わる基礎知識の習得を行うとともに、統計解析ソフトRを用いた統計データ処理の実践について学ぶ。
関連科目名、関連科目コード番号 【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】	EBMII
授業の概要	EBMとは、Evidence-Based Medicineの略であり、大辞林（三省堂）によれば、「根拠に基づいた医療。経験則に頼る医療から脱却し、臨床研究などの科学的データをもとに、患者にとって最も有益で害の少ない治療法を選択する医療。」とある。 すなわち、最新で最善の科学的な根拠に基づく医療を目の前の患者に適用することであり、その具体的な手順は、 1. 臨床的な疑問を解答可能な形にする 2. 最善のエビデンスを見つける 3. エビデンスを吟味する

【COURSE SUMMARY】	4. 診療に関わる決断をする 5. 以上の過程を評価する であると言われている。EBMⅠの授業では、この5段階の手順のうち3. 5. を実施するにおいて最も重要な基礎となる「医学統計」の考え方を身に着け、実際に応用できるようになることを目指す。 また、近年のAIにおけるデータ解析・処理における基本的な事項である微分積分及び線形代数における基礎的な知識について理解し、AIユーザとしての基本的な知識の習得を目指す
------------------	---

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

	授業科目の到達目標
1	データ要素間の関係をベン図で表現・理解できる。また、事象と標本空間の定義を説明できる
2	データの尺度水準を説明し,代表値、散布度を計算できる。また、与えられた間隔・比率データから度数分布表とヒストグラムを作り,データの平均と分散、標準偏差を計算できる
3	確率の概念と加法定理を説明できる。また、条件付確率と乗法定理を説明できる。
4	離散型確率変数と連続型確率変数を定義し、それらの分布を説明できる。また、確率変数の期待値と分散・標準偏差の定義と性質を説明できる
5	2項分布、正規分布、カイニ乗分布、F分布を説明できる。また、標本分布、標本平均、統計量について説明できる
6	中心極限定理と、定理に基づく標本平均について説明できる。また、点推定と区間推定について説明できる。
7	仮説に対する統計学的検定法を説明できる。
8	1標本データにおける平均値の信頼区間を算出できる。また、検定を行うことができる。
9	2標本データに対する各種検定方法の違いを説明できる。また、検定を行うことができる
10	1標本データにおける比率の信頼区間を算出できる。また、検定を行うことができる。
11	2標本以上のデータに対する独立性の検定を説明できる。また、検定を行うことができる
12	極限の概念を理解し、基礎的な微分積分の計算ができる。
13	積分を使って面積の計算ができる。
14	ベクトルの基本的な演算（加法・スカラー倍）およびノルム・内積の定義を理解し、具体的な計算ができる。
15	行列とベクトルの積および行列の積の定義を理解し、具体的な計算ができる。

この授業で身につける「10+1の能力」	論理的思考力
---------------------	--------

キーワード	EBM、医学統計、線形代数、微分積分
【KEYWORD】	
履修希望学生に求めるもの	
【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】	・理解できない部分はそのままにしておかないこと。毎回講義内容に関する小テストまたは課題を課すので理解レベルを各自確認すること。

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	授業概要
	10/2 ・収束と発散、極限 ・多項式関数、指数関数、対数関数
	担当教員
	野村 與珠亜一国
第2回	授業概要
	10/9 ・関数の傾きと微分の関係、1変数関数の微分法 ・積分
	担当教員
	野村 與珠亜一国

第3回	授業概要
	10/16 ・ 積分と面積の関係 ・ 積分法
	担当教員
	野村 与珠亜一国
第4回	授業概要
	10/23 ・ 小テスト（微分積分） ・ ベクトルの基本演算
	担当教員
	野村 与珠亜一国,三谷 慶太
第5回	授業概要
	10/30 ・ ベクトルの内積 ・ 行列の定義 ・ 行列とベクトルの積
	担当教員
	三谷 慶太
第6回	授業概要
	11/6 ・ 行列の積 ・ 転置行列 ・ 逆行列
	担当教員
	三谷 慶太
第7回	授業概要
	11/13 ・ 小テスト（線形代数） ・ EBMとは、医学における統計学の重要性、統計学概論とデータの扱い
	担当教員
	三谷 慶太,奥原 義保
第8回	授業概要
	11/20 ・ 事象と確率 ・ 確率変数と確率分布
	担当教員
	畠山 豊
第9回	授業概要
	11/27 ・ 推定 ・ 検定
	担当教員
	畠山 豊
第10回	授業概要
	12/4 ・ 検定 ・ 2群間の平均値の差
	担当教員
	畠山 豊

第11回	授業概要 12/11 ・2群間の分散の差と正規性の確認 ・ノンパラメトリック法 担当教員 畠山 豊
第12回	授業概要 12/18 ・比率の検定 ・分割表の検定、適合度検定 担当教員 畠山 豊
第13回	授業概要 1/8 ・Rを使った演習1（オンライン非同期 moodle） 担当教員 三谷 慶太,野村 與珠亜一国
第14回	授業概要 1/22 ・Rを使った演習2（オンライン非同期 moodle） 担当教員 三谷 慶太,野村 與珠亜一国
第15回	授業概要 1/29 ・Rを使った演習3（オンライン非同期 moodle） 担当教員 三谷 慶太,野村 與珠亜一国
第16回	授業概要 統計分野試験 担当教員 畠山 豊

授業時間外の学習 【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】	課題の復習を行い、講義内容を理解しておくこと
教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】	毎回プリントを配布しますが、下記の教科書は必携とします。後々まで役に立ちます。参考書は余裕があれば良いです。 教科書 1. [必携]独習 統計学24講、鶴田陽和、朝倉書店 （分割表・回帰分析は参考書1.に含まれます） 参考書 1. すべての医療系学生・研究者に贈る 独習統計学応用編24講 一分割表・回帰分析・ロジスティック回帰一、鶴田陽和、朝倉書店

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

	比重・配分
小テスト	15
期末試験	85

成績評価に関する補足	・小テスト、演習課題、微分積分、線形代数、統計分野の各試験の結果を総合して成績を評価。 ・小テスト及び課題演習15%、微分積分試験25%、線形代数試験25%、統計試験35% ・各試験で60点（満点は100点）以上なければ再試。 ・総合点で60点未満なら再試あるいは追加課題 ・再試で合格した場合は、再試の点数に関わらず、試験の点数は60点とする。
------------	--

オフィスアワー

氏名	曜日	時間	場所
畠山豊	水曜	4限	要予約
三谷慶太	火曜	3, 4限	要予約
野村與珠亜一国	木曜	4限	要予約

教員の実務経験の有無	無
------------	---

この授業とSDGsとの関連	3 すべての人に健康と福祉を
---------------	----------------

授業形態	講義形式が中心
------	---------

2027年度 シラバスフォーマット(2027 SYLLABUS FORMAT)

授業科目	英文科目名【Course Title】
EBMII	Evidence-Based Medicine II
授業コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
	1
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
	2
開講学期【Semester】	時間割【Day/Period】
1学期	1学期: 木曜日1時限
科目区分等	
▶ナンバリングコード	
ナンバリングコード1	
ナンバリングコード2	
ナンバリングコード3	
ナンバリングコード4	
ナンバリングコード5	
地域関連科目区分	COC+Phase
履修における注意点	
岡豊キャンパス開講	
資格等	
メディア授業科目	

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

（担当教員名・所属は必須）

担当教員名及び所属については、通常あらかじめ設定されていますので、確認してください。なお、担当教員名が違っている場合には、「検索」ボタンから検索し修正を行ってください。また、修正を行った場合には、事務までご連絡ください。
学外の先生など、システムに登録がない教員は直接入力することも可能です。

		担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	E-Mail
1	検索	畠山 豊（代表担当教員）		
2	検索	野村 與珠亜一		
3	検索	兵頭 勇己		
4	検索	三谷 慶太		
5	検索			

授業実施方法（必須 required）

授業実施方法を指定して下さい。

授業実施方法は、現時点の予定（希望）を選択してください。

※履修登録後の教室割り振り等の都合により、実施方式を変更いただく可能性があります。あらかじめ ご了承ください。

☐ 対面のみ	☒ 主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン
☐ オンライン同期型のみ	☐ 主にオンライン同期型（全開講回数の過半数）、一部対面
☐ オンライン非同期型のみ	☐ 主にオンライン非同期型（全開講回数の過半数）、一部
☐ オンライン同期型+非同期型	☐ 主にオンライン（同期型+非同期型の合計が全開講回数の過半数）、一部対面
☐ 調整中	

副題【SUBHEADING】

わかりやすい副題（テーマ）をつけてください。

授業内容が一目でわかるように工夫してください。

例（化学概論II）：討論で学ぶ大学有機化学入門、知識重視の高校化学と違うところ

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

病院情報システムの実践、医療データの標準化及び保護、医学データに対するデータサイエンス等、EBMのベースとなる項目に関して講義と演習で学ぶ

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

授業の目的【COURSE AIMS】（必須 required）

授業科目の目的は、この授業が学部・学科・コース等のカリキュラムのなかで、どのような位置を占めるものであるかを書いてください。学生に伝わりやすい表現を用いてください。

（例：〇〇学基礎で学んだ基礎知識を用いて、さまざまな事例について分析することで、〇〇学の応用・実践について学ぶ。）

EBMを実践するための基礎項目の知識習得及び利用技術について理解する。
病院情報システムを運用するための情報通信技術、データベース技術、データ処理技術などについて理解する。
病院情報システムのデータベースに蓄積された医療データを活用するために必要となる医学統計学やデータサイエンスなどのデータ解析技術を理解し、統計解析手法やデータ処理技術による課題解決ができるようにする。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

授業の概要【COURSE SUMMARY】(必須 required)

授業のテーマ、概要などについて、わかりやすく説明して下さい。

実診療で発生様々なデータに対する病院情報システムによる処理の流れ、診療データを運用する場合における注意点についての解説を行う。医療データに対するデータ処理技術として医学統計と機械学習の手法及びどのように利用されているかの解説を行い、基本的な処理に対する演習を行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】(必須 required)

この授業を通じて、どのようなことができるようになってほしいかを到達目標として記載してください。特に、専門科目の到達目標は、学部・学科・コースのディプロマポリシーに関連するものです。
到達目標は、「1センテンスで1つの到達目標」を原則として簡潔に記述してください。
授業内容や授業の特性を勘案して、複数(3～5)の到達目標を設定することが望ましいとされています。

No	授業科目の到達目標(COURSE OBJECTIVES)
1	病院情報システムにおけるオーダリングシステムや電子カルテについて理解する
2	コンピュータネットワークによる医療機関連携、医療情報の標準化、及び医療情報の保護の必要性を理解する
3	医療データベースを活用するためのデータ処理および統計処理技術につき理解し修得する
4	機械学習によるデータ処理の目的と手法、及び近年の利用状況を理解する
5	
6	
7	
8	

この授業で身につける「10+1の能力」(必須 required)

高知大学では、ディプロマ・ポリシーに紐づけられた学生に身につけてほしい10+1の力を定めています。この授業科目を通じて受講生に身につけてほしい力を明示することで、受講生はどのような能力を身につけようとしているかについて意識しながら学修を進めることができます(複数選択可)。
※「語学・情報に関するリテラシー」は「語学に関するリテラシー」と「情報に関するリテラシー」に分割しています。

☒ 専門分野に関する知識

☐ 人類の文化・社会・自然に関する知識

☒ 論理的思考力

☐ 課題探求力

☐ 語学に関するリテラシー

☒ 情報に関するリテラシー

☐ 表現力

☐ コミュニケーション力

☐ 協働実践力

☐ 自律力

☐ 倫理観

☐ 統合・働きかけ

キーワード【KEYWORD】(必須 required)

検索の時必要になります。キーワードは必ず書き込んでください。複数の場合は句読点で区切ってください。(例:化学、実験、有機化学)

医療情報学、病院情報システム、個人情報保護、医学統計学、データサイエンス、機械学習

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】(必須 required)

この授業の到達目標を達成するために必要な知識や経験を記載することができます。
(例:高校で化学を履修した者。例:理工学部学生を対象とし、数学及び自然科学の知識が必要)
この授業で質の高い学修成果を挙げるために望ましい意欲や態度、関心についても記載できます。
(例:日本や世界の歴史に関心を持っていること。例:いまはできていないが、地域の人と交流してみたいと思っている人。)

EBMIで説明した医学統計学の基礎知識は必要。

履修に係わる注意事項【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

履修希望者に対するコメント、注意事項、定員等がある場合や、複数教員にて授業を行う場合の必要事項(メールアドレス、連絡先等)を記入する場合、ここに明記してください。
(例:定員 36 名、履修申請は第一回目オリエンテーションで行う。)

授業計画【LESSON PLAN】（必須 required）

■各回の授業内容
授業内容と進め方について詳述してください。各週毎のテーマが決まっている場合は明記してください。講義内容(テーマ)と順序が決まっている場合は明記してください。「第一回目:オリエンテーションと履修申請」「5/30～6/1 に実習を行う」など特別な日程がある場合、明記してください。15 週の講義が保証されています。授業は 15 週行う前提で書いてください。
授業内容には、評価のスケジュール、授業時間外の学習等を書くことができます。
・評価のスケジュールを記載する効果
・あらかじめ決まっている期末試験、中間試験、小テストやレポート課題などのスケジュールを記入できます。
・評価に関わる場合はプレゼンテーションやグループディスカッション、実習等も記入するとよいでしょう。
・受講生は評価のスケジュールに合わせて学修を進めることができます。
・授業時間外の学習のスケジュールを記載する効果
・予習、復習等授業時間外の学習の方法や内容について記載すると、学生の授業目標達成を支援できます。
・学生に求める授業時間外の学習内容や、所要時間の目安などを示しておく、どの程度の授業時間外学習がもとめられているか、受講生にもよくわかります。
(例:テキスト25ページ～35ページを読んで、地球温暖化のメカニズムについて説明できるようにしておく。)
(例:プレゼンテーションのためのグループ打合せ)
■担当教員
担当教員を「検索」ボタンから検索し、それぞれ選択を行ってください。
教員検索から担当教員を追加した場合プルダウンで表示されますが、学外の先生等は「教員名(手入力)」に直接入力してください。

第1回	担当教員	検索	畠山 豊
	授業内容	ガイダンス、病院情報システム(1) オーダリングシステム moodleによる小テスト実施	
第2回	担当教員	検索	畠山 豊
	授業内容	病院情報システム(2) データベースシステム、オーダリング課題演習 moodleによる小テスト実施及び提出課題	
第3回	担当教員	検索	畠山 豊
	授業内容	電子カルテ moodleによる小テスト実施	
第4回	担当教員	検索	兵頭 勇己
	授業内容	医療データの個人情報保護 moodleによる小テスト実施	
第5回	担当教員	検索	兵頭 勇己
	授業内容	医療とネットワーク(1) moodleによる小テスト実施	
第6回	担当教員	検索	兵頭 勇己
	授業内容	医療とネットワーク(2) moodleによる小テスト実施	
第7回	担当教員	検索	畠山 豊,兵頭 勇己,三谷 慶太,野村 與珠亜一 国
	授業内容	電子カルテの実習(看護学科棟情報処理室で実施予定) moodleによる課題	
第8回	担当教員	検索	畠山 豊
	授業内容	医療ビッグデータ、収集と活用事例について moodleによる小テスト実施	
第9回	担当教員	検索	畠山 豊
	授業内容	医療データサイエンス(データマイニング、機械学習、深層学習)と、それぞれの応用事例について moodleによる小テスト実施、オンライン非同期(moodle)にて実施	
第10回	担当教員	検索	畠山 豊
	授業内容	医学統計解析(1) 医学統計の基礎、過誤、サンプルサイズ moodleによる小テスト実施	
第11回	担当教員	検索	畠山 豊
	授業内容	医学統計解析(2)サンプルサイズ、分散分析、多重比較 moodleによる小テスト実施	
第12回	担当教員	検索	三谷 慶太,野村 與珠亜一 国
	授業内容	医学統計解析(3) Rによる演習(サンプルサイズ、多重比較) moodleによる課題レポート	
第13回	担当教員	検索	畠山 豊
	授業内容	医学統計解析(4) 多変量解析(重回帰、ロジスティック回帰) moodleによる小テスト実施	
第14回	担当教員	検索	三谷 慶太,野村 與珠亜一 国
	授業内容	医学統計解析(5) Rによる演習(多変量解析) moodleによる課題レポート	
第15回	担当教員	検索	畠山 豊
	授業内容	まとめ 振り返り	
第16回	担当教員	検索	畠山 豊
	授業内容	期末試験	

授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】（必須 required）

大学設置基準に「標準45時間の学修時間を要する教育内容をもって1単位とする」とあることに基づいて、2単位の授業では、週4時間程度の授業時間外学習が必要となります。大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。
予習中心か復習中心かなど、この授業の学修効果を高めるために、授業時間外にどのような学習をすればよいか、授業の特性に基づいて考え方を示してください。

課題、小テストを課すので、授業内容を復習し期日までにmoodle上に提出する

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

授業で使用する教科書及び参考書について記載してください。教科書を指定しない場合も、その旨をお書きください(この項目への記入を必須としています)。
正確な情報が伝わるようできるだけ多くの情報を記載してください。
例:教科書 ○○学入門書(第2編) 高知太郎著 高知大学出版社
参考書 なし、必要に応じて講義の中で紹介
※教科書は必携です

1. すべての医療系学生・研究者に贈る 独習統計学応用編24講 一分割表・回帰分析・ロジスティック回帰 ― 鶴田 陽和(著) 朝倉書店
2. 「統計学:Rを用いた入門書」M.J.Crawley著、野間口他訳 共立出版
3. すぐ読める生存時間解析(Kaplan-Meier法、ロジスティック、COXの比例ハザードの基礎をわかり易く解説) 高橋信 東京図書

Webテキスト【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

WebテキストのURL及び説明文を入力してください。
教員がホームページを使って資料やテキストその他の情報を公開している場合、また、授業に参考となるホームページやWebテキストがある場合にご入力ください。URLは英数半角文字で入力してください。
他人が作成したものをここに載せる場合には、あらかじめ著作権者の許可を得てください。

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】(必須 required)

成績評価とは到達目標の達成度を測ることです。到達目標は、10+1の力のいずれかに関連しているものです。受講生が高等学校までに身につけておくべき力であれば、「知識・理解」「技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」に関連づけられるもので、ただ一つの評価方法だけでは、その達成度を測ることは困難です。したがって、到達目標に示したいいくつかの観点から評価を行なう必要があります。受講生によりわかりやすく提示するためには、到達目標ごとに評価の方法を記載することが望ましいでしょう。到達目標と成績評価の関係については、【成績評価に関する補足】に記述することができます。
また、それぞれの評価方法について、評価の比重・配分を明記してください。
「出席」は受験資格の判断に用いるもの(2/3以上の出席)であって、評価の観点にすべきではありません。授業参加度(授業への貢献)を評価する場合は、どのような参加や貢献を評価するのかを想定して記載してください。
例1: 中間試験30、期末試験30、レポート課題20、その他20のように入力し、その合計が100となるよう調整してください。
※その他に記入する場合、「その他は毎回のレスポンス・シート(授業中への積極的な参加度)」など、必ず内容が分かるように記載してください。

評価方法	比重・配分
小テスト	15
小レポート	5
学習意欲・授業参加度	
中間試験	
中間レポート	
期末試験	80
期末レポート	
その他	

【成績評価に関する補足】

「成績評価の基準と方法」でその他に記入した場合、「その他は毎回のレスポンス・シート(授業中への積極的な参加度)」など、必ず内容が分かるように記載してください。
その他成績評価で補足事項があれば、こちらに記載してください。

小レポート:課題を課す
期末試験:100点満点の試験で60未満は再試験

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

オフィスアワー【OFFICE HOURS】(必須 required)

曜日と時間を明記してください。「随時」等はやめ、必ず部屋にいる時間帯を書いてください。(例:火曜日 2,3 限, 要予約)
その上で、【オフィスアワーに関する補足】に事前にメール等でアポイントを取るように指示しておけば、記載された曜日・時間以外でも面談が可能となります。
【オフィスアワーに関する補足】に詳細を記載する場合などは、1行目にスペース「」を入れて下さい。

氏名	曜日	時間	場所
島山 豊	水曜	4,5限, 要予約	医学情報センター

【オフィスアワーに関する補足】

事前にメール等でアポイントをとること

教員の実務経験との関連

「実務経験のある教員による授業科目」に該当する場合は、チェックをしてください。また、「どのような実務経験をもつ教員が、その経験を活かして、どのような教育を行っているか」を学生に分かるように記載してください。
(例:メーカーの知財部門で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、特許制度の基本的な知識と手法、特許を用いた研究成果の保護・活用の考え方について講義する。)

☐ 実務経験のある教員による授業科目

この授業とSDGsの関連

この授業が国連が定めたSDGs(持続可能な開発目標)と関連がある場合は、該当する項目を選択してください(複数選択可)。授業との関連がわかるように、選択した項目と授業の内容をリンクさせてください。

☐ 1 貧困をなくそう
☐ 2 飢餓をゼロに
☒ 3 すべての人に健康と福祉を
☐ 4 質の高い教育をみんなに
☐ 5 ジェンダー平等を実現しよう
☐ 6 安全な水とトイレを世界中に
☐ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
☐ 8 働きがいも経済成長も
☐ 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
☐ 10 人や国の不平等をなくそう
☐ 11 住み続けられるまちづくりを
☐ 12 つくる責任つかう責任
☐ 13 気候変動に具体的な対策を
☐ 14 海の豊かさを守ろう
☐ 15 陸の豊かさを守ろう
☐ 16 平和と公正をすべての人に
☐ 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

授業形態

授業中にどのような活動が含まれるかを事前に伝えることで、受講生は授業形態などについて了解した上で授業を選択できます(複数選択可)。
授業形態で「その他」にチェックをつけた場合、内容を書いてください。

☒ 講義形式が中心
☐ 口頭での質疑やディスカッションを含む
☐ 授業中や授業時間外のグループワークを含む講義形式が中心
☐ その他

使用するLMS

オンライン授業を予定している場合、またはオンライン授業の実施を余儀なくされた場合に利用予定のLMSを選択してください(複数選択可)。
※当該項目は学生には公表されません

☐ KULAS ☐ Microsoft Teams ☐ Zoom
☐ Moodle ☐ Cisco Webex ☐ その他

記入者名・記入日時等

記入者名・記入日時等を記録として残す際に、必要に応じてご利用ください。
本項目は公開対象外となります。
オムニバス授業における授業担当教員間のメモ帳・伝言板等として使うことができます。
記入例:高知太郎 1/20 13:00記入

年度	2026
授業コード	51119
授業科目	基礎社会医学
英文科目名	Fundamental Social Medicine
講義副題	
開講責任部署	医学部 医学科
講義区分	講義
単位数	1.0
時間割	2学期: 金曜日 2 時限
講義開講時期	2学期
履修開始年次	1
メディア授業科目	
区分1	
区分2	
履修における注意点	医学科仮進級制度対象科目
資格等	

ナンバリングコード
41-3453-11

担当教員

◎は代表教員です。

氏名	所属
◎ 菅沼 成文	医学部
安田 誠史	医学部

授業実施方法	主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン
--------	-------------------------

副題【SUBHEADING】

【テーマ（日本語）】(IN JAPANESE)	衛生公衆衛生学の基礎部分をカバーする
【テーマ（英語）】(IN ENGLISH)	Social Medicine Fundamentals - Fundamentals of Public Health, Environmental Medicine and Epidemiology

授業の目的【COURSE AIMS】	1）人の健康と環境因子との関係を理解する。 2）保健統計の意義と現状、疫学とその応用、疾病の予防について理解する。 3）すべての人間が健康で快適に生活できる社会の実現の方策について理解する。 To have an understanding of 1) Environmental factors and human health 2) The significance of medical statistics and its current situation, epidemiology and its application, and preventive medicine 3) Strategizing policies in order to achieve a society where everyone is healthy and living a fulfilled life
関連科目名、関連科目コード番号 【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】	「中毒学」 「応用社会医学」 「社会医学演習」
	産業保健を含む環境保健、国際保健と疫学入門が基礎社会医学の主な構成要素である。小児保健、高齢者保健に関わるトピックも含む。

授業の概要	Environmental medicine, including industrial health, international medicine, and basic epidemiology, are the main components of basic social medicine as well as pediatric and geriatric health.
【COURSE SUMMARY】	【授業実施方法】 授業は英語で実施する場合がある。 Classes may be conducted in English.

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

	授業科目の到達目標
1	健康、障害と疾病の概念を説明できる。 Students will acquire thorough understanding, and will be able to explain the following: The concept of health, disorders, and diseases
2	シックハウス症候群を概説できる。 Sick House Syndrome
3	疫学の概念と疫学の諸指標について説明できる。 The concept of Epidemiology and its indicators
4	生態系の変化が健康と生活に与える影響（有害物質、環境発癌物質、内分泌攪乱物質）を概説できる。 The effects of the ecosystem on human health and lifestyle (Toxic/harmful exposures, environmental carcinogens, endocrine disruptors)
5	地球環境の変化、生態循環、生物濃縮と健康との関係を説明できる。 The relationship between global environmental change, ecological cycle, and bio-concentration
6	各ライフステージの健康問題について説明できる。 Health issues in different stages of life
7	産業保健を概説できる。 Occupational health
8	環境と健康・疾病との関係（環境と適応、主体環境系、原因と保健行動、環境基準と環境影響評価、公害と環境保全）を概説できる。 The relationship between the environment and health/diseases (environment and adaptation, host-environment systems, health behavior and causes, fundamentals of the environment, assessment on environmental impact pollution and environmental conservation)
9	予防医学（一次、二次、三次予防）を概説できる。 Preventive medicine （primary, secondary, and tertiary）
10	社会構造（家族、コミュニティ、地域社会、国際化）と健康・疾病との関係を概説できる。 The relationship between social structures (family, community, society, international) and health/diseases

この授業で身につける 「10+1の能力」	専門分野に関する知識	人類の文化・社会・自然に関する知識	課題探求力
	語学に関するリテラシー	情報に関するリテラシー	

キーワード	環境、医学、健康、労働、微生物、感染症、栄養、物理的有害要因、化学的有害要因、汚染、水質汚濁、アレルギー、健康管理、環境と遺伝の相互作用、国際保健
【KEYWORD】	Environment, medicine, health, occupation, micro-organism, infectious diseases, nutrition, physical and chemical toxic substances, pollution, water contamination, allergies, health management, interaction between environment and genetics, global health
履修希望学生に求めるもの	医師国家試験の必須科目であるため各自、教科書であるシンブル衛生公衆衛生学の該当箇所を予習して講義に臨むこと。理解度チェックのための小テストが行われる場合がある（不定期）
【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】	As this is the required subject for the National Examination for Medical Practitioners, students must read the textbook “Simple Hygiene/Public Health” and have a good understanding of its contents prior to each lecture. Quizzes may be given to check understanding. (irregular)
履修に係わる注意事項	必ず出席すること。小テスト実施予定（不定期、1回10問程度で出欠にのみ使用） 基礎社会医学は社会医学の基礎的部分をカバーしており、医師国家試験にも出題される分野である。医学部の必修単位である。 Attendance for all lectures is required. Quizzes, consisting of appx. 10 questions, will be given only for the purpose of taking attendance This compulsory subject “Social Medicine Fundamentals” includes the rudiments of Social Medicine and will appear in the National Examination for Medical Practitioners. *This course is in the transition from Japanese to English, therefore a few classes will still be held only in Japanese.
【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】	講義の日程、内容、担当教員は、諸事情により変更される場合がある。 Dates, contents, and lecturers may be changed for unavoidable reasons.

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	授業概要
	2026年10月2日（金） 序論：「環境医学と疫学」 基礎社会医学の全体像について、環境保健と疫学という基本的な方法論について概観する。 Introduction: Environmental Med
	担当教員
第2回	授業概要
	2026年10月9日（金） 中毒学の基本概念1
	担当教員
	栄徳 勝光
第3回	授業概要
	2026年10月16日（金） 医療DX 3：人間工学ツール
	担当教員
	榎原 毅 （非常勤講師）
第4回	授業概要
	2026年10月23日（金） 医療 x VR Medical Virtual Reality
	担当教員
	松村 雅代（医療 x VR学講座）
第5回	授業概要
	2026年10月30日（金） 環境保健：Toxicology
	担当教員
	NAJI ABDERRAHIM
第6回	授業概要
	2026年11月6日（金） 臨床疫学（臨床現場で行う研究） 臨床現場で生じる様々な疑問に対する疫学的手法。臨床研修の本質について学ぶ。 Clinical epidemiology
	担当教員
	佐田 憲映（臨床疫学講座）
第7回	授業概要
	2026年11月13日（金） 環境保健 3：公害(エコチル)
	担当教員
	栄徳 勝光
第8回	授業概要
	2026年11月20日（金） 中毒学の基本概念2
	担当教員
	栄徳 勝光
第9回	授業概要
	2026年11月27日（金） 疫学 1
	担当教員
	安田 誠史

第10回	授業概要
	2026年12月4日（金） 疫学 2
	担当教員
	安田 誠史
第11回	授業概要
	2026年12月11日（金） 疫学 3
	担当教員
	安田 誠史
第12回	授業概要
	2026年12月18日（金） 環境保健：Air,Water Environmental medicine 1: Air, water
	担当教員
	久保 正幸（次世代医療創造センター）
第13回	授業概要
	2027年1月8日（金） 医療DX 1：デジタルヘルス
	担当教員
	廣瀬 智一（デジタルヘルス学）
第14回	授業概要
	2027年1月22日（金） 食品衛生・生活衛生
	担当教員
	田村 太朗
第15回	授業概要
	【非同期】Moodle 産業保健：金属中毒、ガス中毒等
	担当教員
	菅沼 成文
第16回	授業概要
	学年末定期試験 Final Exam
	担当教員

授業時間外の学習	「シンプル衛生公衆衛生学」での予習。 Read the assigned textbook.
【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】	
教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】	小山洋、辻一郎編，シンプル衛生公衆衛生学2026.

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

	比重・配分
期末試験	100

成績評価に関する補足	毎回出欠をとり、2/3（10回）以上の出席がない者には期末試験の受験資格を与えない。 moodle授業は指定した期限（後日連絡）までに動画を視聴することで出席とする。 基本的には筆記試験結果で評価する。（100％） 筆記試験の出題範囲としては講義で述べられた項目は重点ではあるがすべてではない。 60点以上を取った者を合格とし、不合格者には再試験を1回だけ行う。
------------	---

オフィスアワー

氏名	曜日	時間	場所
菅沼成文	要予約	要予約	環境医学

オフィスアワーに関する補足	事前にメール等でアポイントを取ること。 E-mail: im16@kochi-u.ac.jp
---------------	---

教員の実務経験の有無	無
------------	---

授業形態	講義形式が中心
------	---------

年度	2025
授業コード	51101
授業科目	数理科学I
英文科目名	Mathematics Science I
講義副題	
開講責任部署	医学部 医学科
講義区分	講義
単位数	1.0
時間割	1学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	1学期
履修開始年次	1
メディア授業科目	
区分1	
区分2	
履修における注意点	
資格等	

ナンバリングコード
41-2121-11

担当教員

◎は代表教員です。

氏名	所属
◎ 川原村 敏幸	医学部
畠山 豊	医学部

授業実施方法	主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン
--------	-------------------------

副題【SUBHEADING】

【テーマ（日本語）】(IN JAPANESE)	入門線形代数
【テーマ（英語）】(IN ENGLISH)	Introduction to Linear Algebra

授業の目的 【COURSE AIMS】	線形代数とは、大雑把に言えば、変数の多い連立一次方程式を整理して解くための手法である。概念そのものに斬新性があるわけではないが、20世紀の技術発展に大きく貢献した学問の一つであり、現在ではAIや機械学習など益々その活躍の場を広げている学問の1つと言える。本授業ではこの線形代数の基本的な概念の習得に的を絞り、問題の解き方の理解や、簡単な応用例の習熟を目的とする。
授業の概要 【COURSE SUMMARY】	ベクトルは高校で学んでいるが、本講義では、行列と併せてそれらを実践的に使うための技術である線形代数をしっかりと学ぶ。板書時間の節約につとめ、講義内容を聞く時間や理解するために割く時間を確保するため、講義内容をまとめた教材を配布する。 授業時間は90分間講義が続く場合が多いが、1時間程度の講義になった場合、残った時間を演習問題(小問)を解く時間とし、授業中にその授業でやった内容を復習するための時間を設ける。 対面式を基準とするが、過去の授業の録画を配信する。 試験日は大学としてまとめて調整が行われるため、改めて連絡する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

	授業科目の到達目標
1	スカラー、ベクトル、行列、テンソルに関して、その概念の理解し、使い方を習得する。
2	行列を用いて、連立一次方程式を表す方法とその解法を習得する。
3	基本変形と簡約な行列を理解する。

4	解の自由度などに関して理解する。
5	正則行列、逆行列について理解する。
6	行列式の概念を学び、利用方法を習得する。
7	線形空間を学び、空間の概念を理解する。
8	線形写像と表現行列を理解する。
9	固有値、固有ベクトル、固有空間を習得する。
10	内積空間について理解しその使い方を学ぶ。
11	直交列や正規化を理解し、正規直交基底を導出する方法を習得する。
12	対角化、三角化について理解し、その判別方法および導出方法を習得する

この授業で身につける「10+1の能力」	論理的思考力
---------------------	--------

キーワード	数学、ベクトル、行列、連立一次方程式、固有値、対角化
【KEYWORD】	
履修希望学生に求めるもの	高校数学の知識。
【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】	

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	授業概要	
	行列と数ベクトル、および、その演算	
	担当教員	
	川原村 敏幸	
第2回	授業概要	
	行列と連立一次方程式	
	担当教員	
	川原村 敏幸	
第3回	授業概要	
	行列による連立1次方程式の演算1	
	担当教員	
	川原村 敏幸	
第4回	授業概要	
	行列による連立1次方程式の演算2	
	担当教員	
	川原村 敏幸	
第5回	授業概要	
	正則行列・逆行列	
	担当教員	
	川原村 敏幸	
第6回	授業概要	
	行列式の定義と性質	
	担当教員	
	川原村 敏幸	
第7回	授業概要	
	余因子行列とクラームルの公式	
	担当教員	
	川原村 敏幸	

第8回	授業概要
	線形(ベクトル)空間
	担当教員
	川原村 敏幸
第9回	授業概要
	ベクトルの基と次元
	担当教員
	川原村 敏幸
第10回	授業概要
	線型写像と表現行列
	担当教員
	川原村 敏幸
第11回	授業概要
	固有値と固有ベクトル
	担当教員
	川原村 敏幸
第12回	授業概要
	内積空間
	担当教員
	川原村 敏幸
第13回	授業概要
	行列の対角化
	担当教員
	川原村 敏幸
第14回	授業概要
	行列の活用例、補足事項など
	担当教員
	川原村 敏幸
第15回	授業概要
	習熟度確認試験
	担当教員
	川原村 敏幸

授業時間外の学習	毎回、受講した内容に関連する課題を出すので、それに取り組むこと。 課題はA4要旨の表裏程度の量だが、1時間～2時間ほどかかると思う。 何度も取り組みしっかりと理解するように心がけること。 授業を聞いているとその場ではなんとなくわかったつもりになっていることがあるが、実際に問題は解けないことがあると思う。 授業終了後できればすぐその日のうちに授業内容の復習をしっかりとすることを勧める。 その他やり方など、初回の授業中に説明する。
教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】	教科書 入門線形代数 三宅敏恒著 培風館 参考書 講義の初めに紹介 教材 講義資料として配付

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

	比重・配分
小テスト	0
小レポート	0
学習意欲・授業参加度	0
中間試験	0

中間レポート	0
期末試験	100
期末レポート	0
その他	x

成績評価に関する補足	加点对象：課題等。期末試験の点数に応じて配分。詳細は初回の授業等で説明。
------------	--------------------------------------

オフィスアワー

氏名	曜日	時間	場所

オフィスアワーに関する補足	teamsでいつでも問い合わせてください。 すぐには返事できないかもしれませんが、なるべく早めに返事いたします。
---------------	---

教員の実務経験の有無	有
	教員の実務経験との関連
	研究歴 2008.03 京都大学大学院 工学研究科にて博士号取得。 2008.04 高知工科大学にて助教として就職。 2019.01－ 高知工科大学 システム工学群にて教授を拝命。 座学教育歴 2004.04－2007.03 大阪桐蔭中学校・高等学校にて、数学科講師。 2014.04－ 高知工科大学にて、熱力学等の授業を受け持つ。 2020.04－ 高知大学医学部 数学科非常勤講師として、微分積分学と線形代数を受け持つ。 化学・電子・機械工学に精通。

この授業とSDGsとの関連	4 質の高い教育をみんなに	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
---------------	---------------	-------------------

授業形態	講義形式が中心
------	---------

年度	2025
授業コード	51102
授業科目	数理科学II
英文科目名	Mathematics Science II
講義副題	
開講責任部署	医学部 医学科
講義区分	講義
単位数	1.0
時間割	2学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	2学期
履修開始年次	1
メディア授業科目	
区分1	
区分2	
履修における注意点	
資格等	

ナンバリングコード
41-2122-11

担当教員

◎は代表教員です。

氏名	所属
◎ 川原村 敏幸	医学部
畠山 豊	医学部

授業実施方法	主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン
--------	-------------------------

副題【SUBHEADING】

【テーマ（日本語）】(IN JAPANESE)	微分積分の基礎
【テーマ（英語）】(IN ENGLISH)	Differential and Integral Calculus

授業の目的 【COURSE AIMS】	微分積分学は、17世紀、ニュートンとライブニッツが、微分する(接線を求める)ことと、積分する(面積を求める)ことが逆演算であるという発見をしたことから始まった。この発見から微分積分学は急速に発達し、現在ではあらゆる分野で活用され、まさに現代技術の土台を支えているといっても過言ではない。本授業ではこの微分積分の理論、計算法、実例と応用の習熟を目的とする。
授業の概要 【COURSE SUMMARY】	微分積分学は既に高校で学んでいるが、その理屈などに関して詳しく触れてこなかった。大学では、定義、理論をしっかりと学ぶ。そのため板書が多くなるが、それではノートを書くのに時間がとられてしまうため、全てをまとめた書き込み式の資料を配布し時間の節約につとめ、講義内容を聞く時間や理解するために割く時間を確保できるように努める。 授業時間は90分間講義が続く場合が多い。1時間程度の講義になった場合、残った時間を演習問題(小問)を解く時間とし、授業中にその授業でやった内容を復習するための時間を設ける。 対面式を基準とするが、過去の授業の録画を配信する。 試験日は大学としてまとめて調整が行われるため、改めて連絡する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

	授業科目の到達目標
1	数と初等関数について、再確認する。
2	数、数列、収束、極限、関数、連続性について学習し、理解する。
3	微分係数、導関数の違いについて理解し、各関数の導関数について理解する。

4	関数が有する性質について理解する。
5	全微分・偏微分について理解する。
6	連鎖律、他変数関数の性質と応用について理解する。
7	他変数関数の極値と最大最小問題について理解する。
8	陰関数定理・逆写像定理について理解し、条件付き最大最小問題を解けるようにする。
9	不定積分について理解し、各種計算方を習学する。
10	区分求積の限界とリーマン積分の必要性を理解し、定積分について理解する。
11	広義積分について理解する。
12	各種級数展開について理解する。
13	重積分について理解し、重積分を習得する。
14	重積分における置換積分の意義を理解し、変数変換の方法を学び、習得する。
15	線積分、グリーンンの定理、重心および表面積の求め方、ガウスの定理、ストークスの定理を理解する。

この授業で身につける「10+1の能力」	論理的思考力
---------------------	--------

キーワード	数学、極限、微分、積分
【KEYWORD】	
履修希望学生に求めるもの	高校で習う初等関数、微分、積分の知識
【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】	

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	授業概要	
	数の基本性質1：数と初等関数	
	担当教員	
	川原村 敏幸	
第2回	授業概要	
	数の基本性質2：数列・関数の収束・極限・連続性	
	担当教員	
	川原村 敏幸	
第3回	授業概要	
	数の基本性質3：導関数	
	担当教員	
	川原村 敏幸	
第4回	授業概要	
	数の基本性質4：関数の性質	
	担当教員	
	川原村 敏幸	
第5回	授業概要	
	微分1：多変数関数の微分(偏微分と全微分)	
	担当教員	
	川原村 敏幸	
第6回	授業概要	
	微分2：連鎖律、多変数関数の性質と応用	
	担当教員	
	川原村 敏幸	

第7回	授業概要
	微分3：陰関数定理
	担当教員
	川原村 敏幸
第8回	授業概要
	積分1：不定積分
	担当教員
	川原村 敏幸
第9回	授業概要
	積分2：定積分
	担当教員
	川原村 敏幸
第10回	授業概要
	積分3：広義積分と積分の応用
	担当教員
	川原村 敏幸
第11回	授業概要
	重積分1：定義と計算方法
	担当教員
	川原村 敏幸
第12回	授業概要
	重積分2：変数変換・重積分の広義積分
	担当教員
	川原村 敏幸
第13回	授業概要
	重積分3：応用
	担当教員
	川原村 敏幸
第14回	授業概要
	復習等
	担当教員
	川原村 敏幸
第15回	授業概要
	習熟度確認試験
	担当教員
	川原村 敏幸

授業時間外の学習	毎回、受講した内容に関連する課題を出しますので、それに取り組んでください。 課題はA4要旨の表裏程度の量ですが、1時間～2時間ほどかかるかと思います。 何度も取り組みしっかりと理解するように心がけてください。 授業を聞いているとその場ではなんとなくわかったつもりになっていることがあるが、実際に問題は解けないことがあると思う。授業終了後できれば すぐその日のうちに授業内容の復習をしっかりとすることをお勧めします。 その他やり方など、初回の授業中に説明します。
教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】	教科書 微分積分学 難波誠著 裳華房 参考書 講義の初めに紹介 教材 講義資料として配付

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

	比重・配分
--	-------

小テスト	0
小レポート	0
学習意欲・授業参加度	0
中間試験	0
中間レポート	0
期末試験	100
期末レポート	0
その他	x

成績評価に関する補足	加点对象：課題等。期末試験の点数に応じて配分。詳細は初回の授業等で説明。
------------	--------------------------------------

オフィスアワー

氏名	曜日	時間	場所

オフィスアワーに関する補足	teamsでいつでも問い合わせてください。 すぐには返事できないかもしれませんが、なるべく早めに返事いたします。
---------------	---

教員の実務経験の有無	有
	教員の実務経験との関連
	研究歴 2008.03 京都大学大学院 工学研究科にて博士号取得。 2008.04 高知工科大学にて助教として就職。 2019.01－ 高知工科大学 システム工学群にて教授を拝命。 座学教育歴 2004.04－2007.03 大阪桐蔭中学校・高等学校にて、数学科講師。 2014.04－ 高知工科大学にて、熱力学等の授業を受け持つ。 2020.04－ 高知大学医学部 数学科非常勤講師として、微分積分学と線形代数を受け持つ。 化学・電子・機械工学に精通。

この授業とSDGsとの関連	4 質の高い教育をみんなに	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
---------------	---------------	-------------------

授業形態	講義形式が中心
------	---------

年度	2025
授業コード	51108
授業科目	EBMI
英文科目名	Evidence-Based Medicine I
講義副題	
開講責任部署	医学部 医学科
講義区分	演習
単位数	2.0
時間割	2学期: 金曜日 3 時限, 2学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	2学期
履修開始年次	1
メディア授業科目	
区分1	
区分2	
履修における注意点	
資格等	

ナンバリングコード
41-2131-21

担当教員

◎は代表教員です。

氏名	所属
◎ 島山 豊	医学部
奥原 義保	医学部
野村 與珠亜一国	医学部
兵頭 勇己	医学部
三谷 慶太	医学部

授業実施方法	主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン
--------	-------------------------

副題【SUBHEADING】

【テーマ（日本語）】(IN JAPANESE)	EBMの実践において重要な医療統計学の基礎、Rという簡単なコンピュータ言語を用いた実践もできるようにする
-------------------------	--

授業の目的【COURSE AIMS】	記述統計、推測統計に関わる基礎知識の習得を行うとともに、統計解析ソフトRを用いた統計データ処理の実際について学ぶ
関連科目名、関連科目コード番号 【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】	EBMII
授業の概要	EBMとは、Evidence-Based Medicineの略であり、大辞林（三省堂）によれば、「根拠に基づいた医療。経験則に頼る医療から脱却し、臨床研究などの科学的データをもとに、患者にとって最も有益で害の少ない治療法を選択する医療。」とある。 すなわち、最新で最善の科学的な根拠に基づく医療を目の前の患者に適用することであり、その具体的な手順は、 1. 臨床的な疑問を解答可能な形にする

【COURSE SUMMARY】	2. 最善のエビデンスを見つける 3. エビデンスを吟味する 4. 診療に関わる決断をする 5. 以上の過程を評価する
	であると言われている。EBMⅠの授業では、この5段階の手順のうち3. 5. を実施するにおいて最も重要な基礎となる「医学統計」の考え方を身に付け、実際に応用できるようになることを目指す。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

	授業科目の到達目標
1	データ要素間の関係をベン図で表現・理解できる。また、事象と標本空間の定義を説明できる
2	データの尺度水準を説明し,代表値、散布度を計算できる。また、与えられた間隔・比率データから度数分布表とヒストグラムを作り,データの平均と分散、標準偏差を計算できる
3	確率の概念と加法定理を説明できる。また、条件付確率と乗法定理を説明できる。
4	離散型確率変数と連続型確率変数を定義し、それらの分布を説明できる。また、確率変数の期待値と分散・標準偏差の定義と性質を説明できる
5	2項分布、正規分布、カイ二乗分布、F分布を説明できる。また、標本分布、標本平均、統計量について説明できる
6	中心極限定理と、定理に基づく標本平均について説明できる。また、点推定と区間推定について説明できる。
7	仮説に対する統計学的検定法を説明できる。
8	1標本データにおける平均値の信頼区間を算出できる。また、検定を行うことができる。
9	2標本データに対する各種検定方法の違いを説明できる。また、検定を行うことができる
10	1標本データにおける比率の信頼区間を算出できる。また、検定を行うことができる。
11	2標本以上のデータに対する独立性の検定を説明できる。また、検定を行うことができる
12	2変量の散布図を描き、回帰と相関の違いを説明できる。また、相関係数に関する処理を行うことができる。
13	単回帰分析について説明できる。また、実際に分析を行うことができる。

この授業で身につける「10+1の能力」	論理的思考力
---------------------	--------

キーワード	
【KEYWORD】	EBM、医学統計
履修希望学生に求めるもの	
【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】	・理解できない部分はそのままにしておかないこと。授業の後半で前半の講義や前回の課題の説明でわからなかったことを質問する時間を取るの、その際に十分理解すること。 ・毎回の授業の前半は講義を行う。その後、小テストを前半終了までに解答し前半終了後の休み時間に提出してもらう。 ・毎回の授業の後半で課題を課す。普通に前半の授業を聞いていれば後半の授業時間内に解ける問題である。 ・課題の解答について次回の講義で説明する。期末試験も課題を理解していれば確実に解ける問題を出題するので、課題の復習を行い理解しておくこと。

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	授業概要
	10/3 EBMとは、医学における統計学の重要性、統計学概論とデータの扱い
	担当教員
	奥原 義保
第2回	授業概要
	10/10 事象と確率
	担当教員
	畠山 豊
第3回	授業概要
	10/17 確率変数と確率分布
	担当教員
	畠山 豊

第4回	授業概要	
	10/24 推定	
	担当教員	
	畠山 豊	
第5回	授業概要	
	10/31 検定	
	担当教員	
	畠山 豊	
第6回	授業概要	
	11/7 2群間の平均値の差	
	担当教員	
	畠山 豊	
第7回	授業概要	
	11/14 Rを使った演習1（オンライン非同期 moodle）	
	担当教員	
	畠山 豊	
第8回	授業概要	
	11/21 2群間の分散の差と正規性の確認	
	担当教員	
	畠山 豊	
第9回	授業概要	
	11/28 ノンパラメトリック法	
	担当教員	
	畠山 豊	
第10回	授業概要	
	12/5 比率の検定	
	担当教員	
	畠山 豊	
第11回	授業概要	
	12/12 分割表の検定、適合度検定	
	担当教員	
	畠山 豊	
第12回	授業概要	
	12/19 相関と回帰	
	担当教員	
	畠山 豊	
第13回	授業概要	
	1/9 Rを使った演習2	
	担当教員	
	三谷 慶太,野村 與珠亜一国	
第14回	授業概要	
	1/23 Rを使った演習3	
	担当教員	
	三谷 慶太,野村 與珠亜一国	

第15回	授業概要
	期末試験
	担当教員
	畠山 豊

授業時間外の学習	
【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】	課題の復習を行い、講義内容を理解しておくこと
教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】	毎回プリントを配布しますが、下記の教科書は必携とします。後々まで役に立ちます。参考書は余裕があれば良いです。 教科書 1. [必携]独習 統計学24講、鶴田陽和、朝倉書店 （分割表・回帰分析は参考書 1.に含まれます） 参考書 1. すべての医療系学生・研究者に贈る 独習統計学応用編24講 ―分割表・回帰分析・ロジスティック回帰―、鶴田陽和、朝倉書店

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

	比重・配分
小テスト	10
小レポート	15
期末試験	70
その他	5

成績評価に関する補足	・小テスト、質問、添削し提出した演習課題、Rの演習、期末試験の結果を総合して成績を評価。 ・小テスト10％、質問5％（100点満点に換算しての5％）、課題・Rの演習15％、期末試験70％ ・期末試験単独で60点（満点は100点）以上なければ再試。 ・総合点で60点未満なら再試あるいは追加課題 ・再試で合格した場合は、再試の点数に関わらず、期末試験の点数は60点とする。
------------	---

オフィスアワー

氏名	曜日	時間	場所
畠山豊	水曜	4限	要予約

教員の実務経験の有無	無
------------	---

この授業とSDGsとの関連	3 すべての人に健康と福祉を
---------------	----------------

授業形態	講義形式が中心
------	---------

年度	2025
授業コード	51334
授業科目	EBMII
英文科目名	Evidence-Based Medicine II
講義副題	
開講責任部署	医学部 医学科
講義区分	講義
単位数	1.0
時間割	1学期: 金曜日 3 時限
講義開講時期	1学期
履修開始年次	3
メディア授業科目	
区分1	
区分2	
履修における注意点	
資格等	

ナンバリングコード
41-3132-11

担当教員

◎は代表教員です。

氏名	所属
◎ 畠山 豊	医学部
野村 與珠亜一国	医学部
兵頭 勇己	医学部
三谷 慶太	医学部

授業実施方法	主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン
--------	-------------------------

副題【SUBHEADING】

【テーマ（日本語）】(IN JAPANESE)	病院情報システムの実際、医療データの標準化及び保護、医学データに対するデータサイエンス等、EBMのベースとなる項目に関して講義と演習で学ぶ
-------------------------	---

授業の目的 【COURSE AIMS】	EBMを実践するための基礎項目の知識習得及び利用技術について理解する。 病院情報システムを運用するための情報通信技術，データベース技術，データ処理技術などについて理解する。 病院情報システムのデータベースに蓄積された医療データを活用するために必要となる医学統計学やデータサイエンスなどのデータ解析技術を理解し、統計解析手法やデータ処理技術による課題解決ができるようにする。
授業の概要 【COURSE SUMMARY】	実診療で発生様々なデータに対する病院情報システムによる処理の流れ、診療データを運用する場合における注意点についての解説を行う。医療データに対するデータ処理技術として医学統計と機械学習の手法及びどのように利用されているかの解説を行い、基本的な処理に対する演習を行う。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

	授業科目の到達目標
1	病院情報システムにおけるオーダリングシステムや電子カルテについて理解する

2	コンピュータネットワークによる医療機関連携、医療情報の標準化、及び医療情報の保護の必要性を理解する
3	医療データベースを活用するためのデータ処理および統計処理技術につき理解し修得する
4	機械学習によるデータ処理の目的と手法、及び近年の利用状況を理解する

この授業で身につける「10+1の能力」	専門分野に関する知識	論理的思考力	情報に関するリテラシー
---------------------	------------	--------	-------------

キーワード	医療情報学、病院情報システム、個人情報保護、医学統計学、データサイエンス、機械学習
【KEYWORD】	
履修希望学生に求めるもの	EBMIで説明した医学統計学の基礎知識は必要。
【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】	

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	授業概要 4/18 ガイダンス、病院情報システム(1) オーダリングシステム moodleによる小テスト実施 担当教員 畠山 豊
第2回	授業概要 4/25 病院情報システム(2) データベースシステム、オーダリング課題演習 moodleによる小テスト実施及び提出課題 担当教員 畠山 豊
第3回	授業概要 5/2 電子カルテ moodleによる小テスト実施 担当教員 畠山 豊
第4回	授業概要 5/9 医療データの個人情報保護 moodleによる小テスト実施 担当教員 兵頭 勇己
第5回	授業概要 5/16 医療とネットワーク(1) moodleによる小テスト実施 担当教員 兵頭 勇己
第6回	授業概要 5/23 医療とネットワーク(2) moodleによる小テスト実施 担当教員 兵頭 勇己
第7回	授業概要 5/30 電子カルテの実習（看護学科棟情報処理室で実施予定） moodleによる課題 担当教員 畠山 豊

第8回	授業概要
	6/6 医療ビッグデータ、収集と活用事例について moodleによる小テスト実施
	担当教員
	畠山 豊
第9回	授業概要
	6/13 医療データサイエンス（データマイニング、機械学習、深層学習）と、それ ぞれの応用事例について moodleによる小テスト実施
	担当教員
	畠山 豊
第10回	授業概要
	6/20 医学統計解析(1) 医学統計の基礎、過誤、サンプルサイズ moodleによる小テスト実施
	担当教員
	畠山 豊
第11回	授業概要
	6/27 医学統計解析(2)サンプルサイズ、分散分析、多重比較 moodleによる小テスト実施
	担当教員
	畠山 豊
第12回	授業概要
	7/4 医学統計解析(3) Rによる演習（サンプルサイズ、多重比較） moodleによる課題レポート
	担当教員
	野村 與珠亜一国
第13回	授業概要
	7/11 医学統計解析(4) 多変量解析（重回帰、ロジスティック回帰） moodleによる小テスト実施
	担当教員
	畠山 豊
第14回	授業概要
	7/18 医学統計解析(5) Rによる演習（多変量解析） moodleによる課題レポート
	担当教員
	三谷 慶太,野村 與珠亜一国
第15回	授業概要
	期末試験
	担当教員
	畠山 豊

授業時間外の学習	
【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】	課題、小テストを課すので、授業内容を復習し期日までにmoodle上に提出する
教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】	1. すべての医療系学生・研究者に贈る 独習統計学応用編24講 一分割表・回帰分析・ロジスティック回帰― 鶴田 陽和 (著) 朝倉書店 2. 「統計学：Rを用いた入門書」,M.J.Crawley著、野間口他訳 共立出版 3. すぐ読める生存時間解析（Kaplan-Meier法、ロジスティック、COXの比例ハザードの基礎をわかり易く解説） 高橋 信 東京図書

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

	比重・配分
小テスト	15
小レポート	5
期末試験	80

成績評価に関する補足	小レポート：課題を課す 期末試験：100点満点の試験で60未満は再試験
------------	--

オフィスアワー

氏名	曜日	時間	場所
畠山豊	水曜	4,5限, 要予約	医学情報センター

オフィスアワーに関する補足	事前にメール等でアポイントを取ること
---------------	--------------------

教員の実務経験の有無	無
------------	---

この授業とSDGsとの関連	3 すべての人に健康と福祉を
---------------	----------------

授業形態	講義形式が中心
------	---------

年度	2025
授業コード	51237
授業科目	基礎社会医学
英文科目名	Fundamental Social Medicine
講義副題	
開講責任部署	医学部 医学科
講義区分	講義
単位数	1.0
時間割	2学期: 金曜日 2 時限
講義開講時期	2学期
履修開始年次	2
メディア授業科目	
区分1	
区分2	
履修における注意点	
資格等	

ナンバリングコード
41-3453-11

担当教員

◎は代表教員です。

氏名	所属
◎ 菅沼 成文	医学部
栄徳 勝光	医学部
NAJI ABDERRAHIM	医学部
安光 ラヴェル 香保子	医学部

授業実施方法	対面のみ
--------	------

副題【SUBHEADING】

【テーマ（日本語）】(IN JAPANESE)	衛生公衆衛生学の基礎部分をカバーする
【テーマ（英語）】(IN ENGLISH)	Social Medicine Fundamentals - Fundamentals of Public Health, Environmental Medicine and Epidemiology

授業の目的【COURSE AIMS】	1) 人の健康と環境因子との関係を理解する。 2) 保健統計の意義と現状、疫学とその応用、疾病の予防について理解する。 3) すべての人間が健康で快適に生活できる社会の実現の方策について理解する。 To have an understanding of 1) Environmental factors and human health 2) The significance of medical statistics and its current situation, epidemiology and its application, and preventive medicine 3) Strategizing policies in order to achieve a society where everyone is healthy and living a fulfilled life
関連科目名、関連科目コード番号	「中毒学」 「応用社会医学」 「社会医学演習」
【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】	

授業の概要 【COURSE SUMMARY】	産業保健を含む環境保健、国際保健と疫学入門が基礎社会医学の主な構成要素である。小児保健、高齢者保健に関わるトピックも含む。 Environmental medicine, including industrial health, international medicine, and basic epidemiology, are the main components of basic social medicine as well as pediatric and geriatric health. 【授業実施方法】 授業は主に、英語で実施予定。 Classes are mainly conducted in English.
--------------------------------------	--

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

	授業科目の到達目標
1	健康、障害と疾病の概念を説明できる。 Students will acquire thorough understanding, and will be able to explain the following: The concept of health, disorders, and diseases
2	シックハウス症候群を概説できる。 Sick House Syndrome
3	疫学の概念と疫学の諸指標について説明できる。 The concept of Epidemiology and its indicators
4	生態系の変化が健康と生活に与える影響（有害物質、環境発癌物質、内分泌攪乱物質）を概説できる。 The effects of the ecosystem on human health and lifestyle (Toxic/harmful exposures, environmental carcinogens, endocrine disruptors)
5	地球環境の変化、生態循環、生物濃縮と健康との関係を説明できる。 The relationship between global environmental change, ecological cycle, and bio-concentration
6	各ライフステージの健康問題について説明できる。 Health issues in different stages of life
7	産業保健を概説できる。 Occupational health
8	環境と健康・疾病との関係（環境と適応、主体環境系、原因と保健行動、環境基準と環境影響評価、公害と環境保全）を概説できる。 The relationship between the environment and health/diseases (environment and adaptation, host-environment systems, health behavior and causes, fundamentals of the environment, assessment on environmental impact pollution and environmental conservation)
9	予防医学（一次、二次、三次予防）を概説できる。 Preventive medicine （primary, secondary, and tertiary）
10	社会構造（家族、コミュニティ、地域社会、国際化）と健康・疾病との関係を概説できる。 The relationship between social structures (family, community, society, international) and health/diseases

この授業で身につける「10+1の能力」	専門分野に関する知識 語学に関するリテラシー	人類の文化・社会・自然に関する知識 情報に関するリテラシー	課題探求力
---------------------	--	---	-------

キーワード 【KEYWORD】	環境、医学、健康、労働、微生物、感染症、栄養、物理的有害要因、化学的有害要因、汚染、水質汚濁、アレルギー、健康管理、環境と遺伝の相互作用、国際保健 Environment, medicine, health, occupation, micro-organism, infectious diseases, nutrition, physical and chemical toxic substances, pollution, water contamination, allergies, health management, interaction between environment and genetics, global health
履修希望学生に求めるもの 【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】	医師国家試験の必須科目であるため各自、教科書であるシンプル衛生公衆衛生学の該当箇所を予習して講義に臨むこと。理解度チェックのための小テストが行われる場合がある（不定期） As this is the required subject for the National Examination for Medical Practitioners, students must read the textbook “Simple Hygiene/Public Health” and have a good understanding of its contents prior to each lecture. Quizzes may be given to check understanding. (irregular)
履修に係わる注意事項 【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】	必ず出席すること。小テスト実施予定（不定期、1回10問程度で出欠にのみ使用） 基礎社会医学は社会医学の基礎的部分をカバーしており、医師国家試験にも出題される分野である。医学部の必修単位である。Attendance for all lectures is required. Quizzes, consisting of appx. 10 questions, will be given only for the purpose of taking attendance This compulsory subject “Social Medicine Fundamentals” includes the rudiments of Social Medicine and will appear in the National Examination for Medical Practitioners. *This course is in the transition from Japanese to English, therefore a few classes will still be held only in Japanese. 講義の日程、内容、担当教員は、諸事情により変更される場合がある。 Dates, contents, and lecturers may be changed for unavoidable reasons.

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	授業概要
	2025年10月3日（金） 序論：「環境医学と疫学」 基礎社会医学の全体像について、環境保健と疫学という基本的な方法論について概観する。 Introduction: Environmental Medicine and Epidemiology
	担当教員
	菅沼 成文
第2回	授業概要
	2025年10月10日（金） 疫学：基本概念、疫学指標とデザイン Epidemiology: basic concepts, epidemiological index and study design
	担当教員
	栄徳 勝光
第3回	授業概要
	2025年10月17日（金） 環境保健：Air,Water Environmental medicine 1: Air, water
	担当教員
	栄徳 勝光
第4回	授業概要
	2025年10月24日（金） 医療 x VR Medical Virtual Reality
	担当教員
	松村 雅代（医療 x VR学講座）
第5回	授業概要
	2025年10月31日（金） 【Topics】働く世代のメンタルヘルス Mental Health for the working generation
	担当教員
	鈴木 重裕（非常勤講師）
第6回	授業概要
	2025年11月7日（金） 産業保健1：総論、物理・化学的有害要因 Occupational Health 1: Overview, physical hazardous energy & chemical hazardous substances
	担当教員
	菅沼 成文
第7回	授業概要
	2025年11月14日（金） 産業保健2：物理・化学的、作業態様による有害要因 Occupational Health 2: Occupational Lung disease/ occupational ergonomics
	担当教員
	菅沼 成文
第8回	授業概要
	2025年11月21日（金） 環境保健：環境医学とエピジェネティクス エピジェネティックな遺伝子発現制御の紹介 Environmental medicine 3: epigenetics
	担当教員
	清澤 秀孔（非常勤講師）

第9回	授業概要
	2025年11月28日（金） 環境保健：Toxicology
	担当教員
	NAJI ABDERRAHIM
第10回	授業概要
	2025年12月5日（金） じん肺 Occupational Lung Disease
	担当教員
	菅沼 成文
第11回	授業概要
	2025年12月12日（金） 臨床疫学（臨床現場で行う研究） 臨床現場で生じる様々な疑問に対する疫学的手法。臨床研修の本質について学ぶ。 Clinical epidemiology
	担当教員
	佐田 憲映（臨床疫学講座）
第12回	授業概要
	2025年12月19日（金） 環境保健：Soil,Pollutions、アレルギー アレルギーを悪化させる因子の研究と予防の話 Environmental medicine 2: Soil, pollution, allergies
	担当教員
	弘田 量二（非常勤講師）
第13回	授業概要
	2026年1月9日（金） 環境保健（環境疫学）：エコチル調査 エコチル調査について Environmental medicine 4: Japan Environment and Children's Study (JECS)
	担当教員
	安光 ラヴェル 香保子
第14回	授業概要
	2026年1月23日（金） 国際保健1 Global Health 1
	担当教員
	菅沼 成文
第15回	授業概要
	2026年1月30日（金） 国際保健2 Global Health 2
	担当教員
	菅沼 成文,菊野 竜一郎（非常勤講師）
第16回	授業概要
	学年未定期試験 Final Exam
	担当教員
	菅沼 成文

授業時間外の学習	「シンプル衛生公衆衛生学」での予習。
【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】	Read the assigned textbook.

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

	比重・配分
期末試験	100

成績評価に関する補足	毎回出欠をとり、2/3（10回）以上の出席がない者には期末試験の受験資格を与えない。 基本的には筆記試験結果で評価する。（100%） 筆記試験の出題範囲としては講義で述べられた項目は重点ではあるがすべてではない。 60点以上を取った者を合格とし、不合格者には再試験を1回だけ行う。
------------	---

オフィスアワー

氏名	曜日	時間	場所
菅沼成文	要予約	要予約	環境医学

オフィスアワーに関する補足	事前にメール等でアポイントを取ること。 E-mail: im16@kochi-u.ac.jp
---------------	---

教員の実務経験の有無	無
------------	---

授業形態	講義形式が中心	口頭での質疑やディスカッションを含む	授業中や授業時間外のグループワークを含む
	その他		

年度	2025
授業コード	52306
授業科目	保健統計学
英文科目名	
講義副題	
開講責任部署	医学部 看護学科
講義区分	講義
単位数	2.0
時間割	1学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	1学期
履修開始年次	3
メディア授業科目	対象
区分1	
区分2	
履修における注意点	
資格等	メディア授業科目

ナンバリングコード
42-26K1-11

担当教員

◎は代表教員です。

氏名	所属
◎ 畠山 豊	医学部
野村 與珠亜一国	医学部
三谷 慶太	医学部

授業実施方法	主に対面（全開講回数の過半数）、一部オンライン
--------	-------------------------

副題【SUBHEADING】

【テーマ（日本語）】(IN JAPANESE)	統計の枠組みにおけるデータ評価方法を学ぶ
-------------------------	----------------------

授業の目的【COURSE AIMS】	数理・データサイエンス・AI科目の派生として、統計学の基礎レベル及び、実際にデータ解析の流れをエクセルを用いて学ぶ
授業の概要 【COURSE SUMMARY】	データの分類作業及び統計学を理解するための基礎知識である集合・確率の知識を学習する。 記述統計及び推測統計の基本的な知識を学習し、エクセルを用いて実際のデータ処理作業を行う。 これらを通じて、データ処理の基礎知識と基本的な作業を習得する。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

	授業科目の到達目標
1	集合の基礎知識を習得し、ベン図を読み取ることができるようになる。
2	確率の基礎知識を習得し、確率の意味を説明できるようになる。
3	データの代表値（平均値、中央値、最頻値）及びバラつきを示す指標（分散、四分位範囲）を理解し、それぞれの違いを説明できるようになる。
4	エクセルを用いて、データ代表値などの記述統計量を算出できるようになる。
5	推測統計によって得られた結果の意味を理解し、説明できるようになる。
6	Welchのt検定をエクセルを用いて実施できるようになる。

7	相関係数をエクセルを用いて導出できるようになる。
---	--------------------------

この授業で身につける「10+1の能力」	論理的思考力	情報に関するリテラシー
---------------------	--------	-------------

キーワード	確率、記述統計、推測統計
【KEYWORD】	
履修希望学生に求めるもの	エクセルの基本的な操作ができる前提で演習を実施します。
【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】	

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	授業概要	
	4/18 講義の進め方について、「統計学の枠組み」、「集合」	
	担当教員	
	三谷 慶太	
第2回	授業概要	
	4/25 確率についての基礎	
	担当教員	
	野村 與珠亜一国	
第3回	授業概要	
	5/2 データの可視化、様々なグラフについて	
	担当教員	
	野村 與珠亜一国	
第4回	授業概要	
	5/9 記述統計量の計算方法	
	担当教員	
	三谷 慶太	
第5回	授業概要	
	5/16 質的データについて	
	担当教員	
	三谷 慶太	
第6回	授業概要	
	5/23 データ分布について	
	担当教員	
	野村 與珠亜一国	
第7回	授業概要	
	5/30 標本と抽出について	
	担当教員	
	野村 與珠亜一国	
第8回	授業概要	
	6/6 点推定、区間推定について	
	担当教員	
	三谷 慶太	
第9回	授業概要	
	6/13 仮説検定、有意水準について	
	担当教員	
	三谷 慶太	

第10回	授業概要
	6/20 相関について
	担当教員
	三谷 慶太
第11回	授業概要
	6/27 エクセルによる基本統計量の計算
	担当教員
	野村 與珠亜一国
第12回	授業概要
	7/4 エクセルによる1標本の検定について
	担当教員
	野村 與珠亜一国
第13回	授業概要
	7/11 エクセルによる2標本の検定について
	担当教員
	野村 與珠亜一国
第14回	授業概要
	7/18 エクセルによる比率の検定について
	担当教員
	三谷 慶太
第15回	授業概要
	7/25 エクセルによる相関係数の算出について
	担当教員
	三谷 慶太

授業時間外の学習	各回に出される課題を実施し、moodle上に解答をアップすること
【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】	
教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】	講義資料はmoodleにアップする

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

	比重・配分
小レポート	80
期末レポート	20

オフィスアワー

氏名	曜日	時間	場所
畠山豊	水曜	4限	要予約
三谷 慶太	火曜日	3,4限	要予約
野村與珠亜一国	木曜日	4限	要予約

オフィスアワーに関する補足	必ず事前にメールでアポイントメントを取ること。
---------------	-------------------------

教員の実務経験の有無	無
------------	---

授業形態	講義形式が中心
------	---------

年度	2025
授業コード	52126
授業科目	看護データサイエンス
英文科目名	
講義副題	
開講責任部署	医学部 看護学科
講義区分	講義
単位数	1.0
時間割	2学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	2学期
履修開始年次	1
メディア授業科目	
区分1	
区分2	
履修における注意点	
資格等	

ナンバリングコード
42-26L5-11

担当教員

◎は代表教員です。

氏名	所属
◎ 栗原 幸男	医学部
兵頭 勇己	医学部

授業実施方法	対面のみ
--------	------

副題【SUBHEADING】

【テーマ（日本語）】(IN JAPANESE)	看護関連データの記述、処理に必要な数学
-------------------------	---------------------

授業の目的【COURSE AIMS】	本学で実施しているリテラシーレベルの数理・データサイエンス（DS）・AI教育を補完し、看護学分野での応用につなげるために必要となる数学知識を修得することを目的とする。
関連科目名、関連科目コード番号 【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】	情報とデータリテラシー データサイエンス入門 保健統計学 保健医療情報学
授業の概要 【COURSE SUMMARY】	看護関連のデータを数学的に表現し、データの特性やデータ項目間の関係を調べるために必要となる線形代数（ベクトルと行列）、関数（多項式関数、指数関数、対数関数）の微積分および行列の固有値問題を学ぶ。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

	授業科目の到達目標
1	データ表現に必要なベクトルと行列を理解する
2	データ処理に必要なベクトルと行列の演算を理解する
3	データ表現およびデータ項目関係を表現するために必要な関数（多項式関数、指数関数、対数関数）を理解する

4	データ処理に必要な関数の微積分を理解する
5	データ特性を解析するために必要な行列の固有値問題を理解する

この授業で身につける「10+1の能力」	専門分野に関する知識	情報に関するリテラシー
---------------------	------------	-------------

キーワード	データ表現、データ解析、線形代数、関数の微積分、固有値問題
【KEYWORD】	
履修希望学生に求めるもの	データサイエンスに必要な数学知識を身に付けようと思っている人
【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】	

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	授業概要	
	線形代数（1） ・ベクトルの演算、内積、行列の演算、連立方程式	
	担当教員	
	兵頭 勇己	
第2回	授業概要	
	線形代数（2） ・階数、余因子展開、逆行列、固有値・固有ベクトル	
	担当教員	
	兵頭 勇己	
第3回	授業概要	
	微分 ・関数とグラフ、極限と導関数、グラフと最適化	
	担当教員	
	兵頭 勇己	
第4回	授業概要	
	積分 ・原始関数と不定積分、置換積分、部分積分、多変数の微積分へ	
	担当教員	
	兵頭 勇己	
第5回	授業概要	
	看護関連のデータをベクトルや行列で表現することを学ぶ	
	担当教員	
	栗原 幸男	
第6回	授業概要	
	看護関連のデータを関数で表現することを学ぶ	
	担当教員	
	栗原 幸男	
第7回	授業概要	
	看護関連のデータ項目間の関係を微分で表現することを学ぶ	
	担当教員	
	栗原 幸男	
第8回	授業概要	
	看護関連のデータ項目間の相関行列から分かることを学ぶ	
	担当教員	
	栗原 幸男	

授業時間外の学習	
【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】	授業では学ぶ数学知識が看護関連のデータ変量の記述や事象説明に役立つか説明しますが、事例は1、2例に限られますので、毎得業後自身で他にどのような事例があるか探索してください。
教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】	教科書 なし 参考書 入門線形代数 三宅 敏恒著 培風館（1991）医学部分館所蔵 新課程微積分 石原 繁、浅野 重初共著 共立出版（1994）医学部分館所蔵 初歩からの数学 Raymond A. Barnett、Michael R. Ziegler、Karl E. Byleen 丸善出版（2016） ベクトル・行列からはじめる最適化数学 Stephen Boyd、Lieven Vandenberghe 講談社（2021）

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

	比重・配分
期末試験	50
期末レポート	50

オフィスアワー

氏名	曜日	時間	場所
栗原幸男	水曜日	15:00-17:00、要予約	保健指導室
兵頭勇己	木曜日	4限（メールでアポイントメント必要）	医学情報センター 1F 第一会議室

教員の実務経験の有無	無
------------	---

授業形態	講義形式が中心
------	---------

年度	2025
授業コード	08034
授業科目	データ解析プログラミング入門
英文科目名	Introduction to programing for data analysis
講義副題	
開講責任部署	共通教育
講義区分	講義
単位数	2.0
時間割	2学期: 集中講義
講義開講時期	2学期
履修開始年次	1
メディア授業科目	対象
区分1	平成20年度以降入学生／令和 6 年度以降入学生
区分2	共通教育）教養科目自然分野／視野を広げる科目自然科学系領域
履修における注意点	
資格等	メディア授業科目

ナンバリングコード
02-0360-11
05-0226-11

担当教員

◎は代表教員です。

氏名	所属
◎ 斎藤 卓也	理工学部

授業実施方法	オンライン非同期型のみ
--------	-------------

副題【SUBHEADING】

【テーマ（日本語）】(IN JAPANESE)	データ解析プログラミング入門
【テーマ（英語）】(IN ENGLISH)	Introduction to programing for data analysis

授業の目的【COURSE AIMS】	データサイエンスに必要なプログラミング技法(Python)と基本的な数学を学び、実際のデータ解析手法（回帰分析、機械学習等）を学ぶ。
授業の概要 【COURSE SUMMARY】	1）Pythonによる基本計算、データ加工、可視化技法を学ぶ。 2）データサイエンスに必要な、微分積分、線形打数、確率統計の復習を行う。 3）データサイエンスに必要な、回帰分析、機械学習等の基礎を学ぶ。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

	授業科目の到達目標
1	実際のPythonによるプログラミングを通じてデータ加工可視化と回帰なニューラルネットワークによる解析技法を学ぶ。

この授業で身につける「10+1の能力」	専門分野に関する知識
---------------------	------------

キーワード	微分積分、確率統計、アルゴリズムの基礎、プログラミング環境設定とプログラミングの基礎、データ加工と可視化、機械学習の基
-------	---

【KEYWORD】	礎（教師あり／なし、深層学習）
履修希望学生に求めるもの	
【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】	高校数学(Ⅰ～Ⅲ)、および大学初年次程度の微分積分、線形代数、確率統計の知識が必要。 また、新課程の高校情報Ⅰ程度の知識とPythonでの初歩的なプログラミング技法が必要。
履修に係わる注意事項	
【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】	定員は30名程度以下を予定。

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	授業概要 データサイエンスの概要とプログラミング環境の設定： 1) データサイエンスの概要 2) Pythonのプログラミング環境の構築 3) 練習問題
第2回	授業概要 Pythonの基礎（1）： 1) 変数、数値、文字列 2) リスト、配列 3) 練習問題（ベクトルと行列）
第3回	授業概要 Pythonの基礎（2）： 1) 制御構文：for～、if～、while～文 2) 練習問題（指数計算：積み立て計算等）
第4回	授業概要 Pythonの基礎（3）： 1) 関数と変数のスコープ 2) 様々なデータ構造（タプル、集合、辞書等） 3) 練習問題（乱数による円周率の決定）
第5回	授業概要 データ分析で使う数学ライブラリー： 1) Numpyの基礎（配列、乱数） 2) Scipyの基礎（行列計算、微分方程式） 3) 練習問題（自由落下運動のシミュレーション）
第6回	授業概要 データの取り扱いとグラフ表現： 1) Pandasの基礎（データ操作、抽出、集計） 2) Matplotlibの基礎（散布図、ヒストグラム、棒グラフ、円グラフ） 3) 練習問題（さまざまなデータのグラフ作成）
第7回	授業概要 記述統計： 1) 記述統計（平均、中央値、最頻値など） 2) 練習問題
第8回	授業概要 回帰分析： 1) 線形単回帰分析と非線形分析 2) 決定係数 3) 練習問題
第9回	授業概要 確率統計の基礎（1）： 1) 確率 2) 確率変数と確率分布 3) 練習問題

第10回	授業概要
	確率統計の基礎（2）： 1）推計統計 2）統計的推定 3）統計的検定 3）練習問題
第11回	授業概要
	機械学習の基礎（1）： 1）機械学習の概要：教師あり学習と教師なし学習 2）重回帰 3）ロジスティック回帰、ラッソ回帰、リッジ回帰 4）練習問題
第12回	授業概要
	機械学習の基礎（2）： 1）決定木 2）k 近傍法 3）サポートベクターマシン 4）練習問題
第13回	授業概要
	機械学習の基礎（3）： 1）教師なし学習 2）クラスタリング 3）主成分分析 4）練習問題
第14回	授業概要
	ニューラルネットワークによる機械学習： 1）ニューラルネットワークの仕組み 2）教師あり学習と教師なし学習 3）練習問題
第15回	授業概要
	ディープラーニング（深層学習）： 1）畳み込みニューラルネットワーク 2）ディープラーニングによる学習と分析 3）練習問題
第16回	授業概要
	課題提出

授業時間外の学習	
【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】	不足している数学や計算機科学の知識を積極的に学習すること。 授業で出題される演習問題やプログラミングを実際に入力や実行を行うこと。
教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】	教科書は指定しませんが、自分でPythonプログラム本、データサイエンスや機械学習の教科書を購入して勉強に役立ててください。 本講義で参考になっているテキストは、高校の情報処理Iの教科書、および、 「東京大学の”データサイエンティスト育成講座”ーPythonで手を動かして学ぶデータ分析ー 塚本邦尊、山田典一、大澤文孝 マイナビ出版」 「データサイエンスのための統計学入門 (Practical Statistics for Data Scientists, 2nd Edition, P. Bruce, A. Bruce, P. Gedeck オライリー・ジャパン」 「わかるPython Best Learning for total Python Beginners 松浦健一郎、司ゆき、SBクリエイティブ出版」 「Introduction to Computation and Programming Using Python John V. Guttag, The MIT Press」 などです。

成績評価に関する補足	3 回程度の試験（レポート）で単位を判断する予定。詳細については講義中に適宜公表。
------------	---

オフィスアワー

氏名	曜日	時間	場所
斎藤卓也	講義期間中	講義期間中	メール等により

教員の実務経験の有無

有

教員の実務経験との関連

年度	2025
授業コード	01929
授業科目	データサイエンス入門
英文科目名	Introduction to Data Science
講義副題	(医学部)
開講責任部署	共通教育
講義区分	講義
単位数	2.0
時間割	2学期: 集中講義
講義開講時期	2学期
履修開始年次	1
メディア授業科目	対象
区分1	令和6年度以降入学生
区分2	共通教育) 数理・データサイエンス・AI科目
履修における注意点	
資格等	メディア授業科目

ナンバリングコード
04-0300-11

担当教員

◎は代表教員です。

氏名	所属
◎ 野村 昇	理工学部
菅原 武志	データサイエンスセンター
李 冠軍	データサイエンスセンター

授業実施方法	オンライン非同期型のみ
--------	-------------

授業の目的 【COURSE AIMS】	データサイエンスや人工知能（AI）は、今後のデジタル社会において「読み・書き」と同様に基礎知識とみなされ、すべての大学生が身に付けるべき教養とされている。 本授業では、データサイエンスやAIに対する基礎的なリテラシーを養い、社会でのデータ活用に関する基本的な理解を深めることを目指す。データの収集・分析・可視化から、機械学習の初歩的な内容まで幅広く学び、デジタル社会で活躍するための知識を身に付ける。
授業の概要 【COURSE SUMMARY】	第1学期に開講される「情報とリテラシー」と合わせて、令和6年度以降の入学生対象の「高知大学リテラシーレベル数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を構成する。本授業では、リテラシーレベルの数理・データサイエンス・AIのモデルカリキュラムを構成する「導入」「基礎」「心得」を中心に、データサイエンスや人工知能、情報処理システムと社会との関わりや基本について学修する。授業は非同期オンライン形式で実施され、集中講義形式ではあるものの、通常の授業と同様に毎週講義動画が公開され、これを視聴し、課題を提出することで学修を進める。

授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

	授業科目の到達目標
1	数理・データサイエンス・AIの重要性を理解して、説明できる。
2	活用における留意事項を理解して、説明をしたり、日常生活において活用できる。
3	人工知能(AI)や数理的なデータの応用が効果的な場面や難しい課題を理解し、人間中心の適切な判断ができるようになる。

この授業で身につける「10+1の能力」	情報に関するリテラシー	倫理観
---------------------	-------------	-----

キーワード	
【KEYWORD】	データサイエンス、AI(人工知能)、ビッグデータ、統計学
履修希望学生に求めるもの	非同期オンライン形式を採用しており、自主的に学習を進める姿勢が求められる。公開スケジュールに沿った上で、自分で計画を立て、教科書を丁寧に読み、学んだ内容を確実に身につけることが重要である。また、締め切りを守って課題を提出することも求められる。
【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】	データサイエンスやAIの基礎は今後の社会において重要な知識となるため、本授業を通じて得た基礎的な理解と技術が将来に役立つよう、意識して学修を進めることが望ましい。

授業計画【LESSON PLAN】

第1回	授業概要
	(1)オリエンテーション
	(2)ビッグデータとAIが変えた社会 ビッグデータ、検索エンジンとSNS、第4次産業革命(DX, IoT)、Society 5.0
第2回	授業概要
	社会におけるデータ・AIの利活用 データの種類、1次・2次データ、構造化・非構造化データ
第3回	授業概要
	データ解析の種類と方法 データ解析の技術、データとAIの活用領域
第4回	授業概要
	データ・AI利活用の現場 データサイエンスのサイクル、現場の活用事例、AI最新技術の活用例
第5回	授業概要
	データの収集と加工 データの収集方法、データクレンジング、標本抽出法
第6回	授業概要
	データの分布と記述統計 種々のデータ、データの分布、基本統計量(代表値・散らばり)
第7回	授業概要
	データの可視化 データ可視化の基本、不適切な可視化
第8回	授業概要
	回帰分析の基礎と応用 単回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析
第9回	授業概要
	時系列分析 時系列データの分解、時系列データからの情報抽出と予測手法
第10回	授業概要
	確率・統計基礎 確率分布、母集団と標本、統計的推定と検定
第11回	授業概要
	AIと社会 AIの歴史、AIの諸領域、AIの難問、AIの開発・実行環境
第12回	授業概要
	AI倫理と情報セキュリティ AI社会原則と倫理、情報セキュリティ、個人情報保護
第13回	授業概要
	機械学習入門 機械学習とは、汎化能力とモデル選択、識別問題の機械学習、機械学習の評価法

第14回	授業概要
	深層学習入門 深層学習とは、ニューラルネットワークの基本原理、パラメータの学習と最適化、深層学習の応用と発展
第15回	授業概要
	生成AI入門 生成AIとは、LLMの活用とプロンプト設計、生成AIの応用と社会的影響、生成AIの未来と課題

授業時間外の学習	本授業科目は、2単位とされているので、週4時間程度の時間外の学習を想定しています。動画を視聴後、教科書を学修して課題を提出する様にして下さい。
【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】	
教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】	以下の書籍を教科書とする 北川 源四郎, 竹村 彰通 編；教養としてのデータサイエンス (データサイエンス入門シリーズ)改訂第2版、講談社 以下の書籍を参考書とする 北川 源四郎, 竹村 彰通 編；応用基礎としてのデータサイエンス (データサイエンス入門シリーズ)、講談社

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

	比重・配分
小テスト	70
期末試験	30

成績評価に関する補足	期末試験の実施を予定している。また、授業毎に出題される確認問題の結果を積算して評価点に加算する。別途課題の提出を求める場合もある。
------------	---

オフィスアワー

氏名	曜日	時間	場所
野村 昇	月曜日	4限 (要予約)	教員研究室 (理工学部2号館6階)
菅原 武志	火曜日	3限 (要予約)	教員室 1 (地域協働学部棟2階)
李 冠軍	水曜日	昼休み(要予約)	教員室 3 (地域協働学部棟2階)

教員の実務経験の有無	無
------------	---

授業形態	講義形式が中心
------	---------

医学部学生の手引

令和8年度

高知大学医学部

目 次

序文 医学部長 井上 啓史

令和8年度 年間行事予定表（医学部）	1
令和8年度 授業時間割表（医学科）	3
令和8年度 授業時間割表（看護学科）	9

I. 学生生活

1. 学生課	15
2. 医学教育創造センター	15
3. 教育関連委員会	16
4. アドバイザー教員制度及びオフィスアワー	16
5. 学生なんでも相談窓口	16
6. インクルージョン支援	17
7. 証明書、手続関係一覧	17
8. 一般的注意事項	17
(1) 医学部学生のアンプロフェッショナルな行為にかかる警告に関する取扱い	17
(2) 掲示板	17
(3) 電子的掲示・通知	18
(4) 郵便物の授受	18
(5) 学生証の携帯	18
(6) 実習用ネームプレートの着用	18
(7) ロッカーの貸与	18
(8) 校内の美化	18
(9) 拾得物・盗難	18
(10) 自動車駐車許可	18
(11) 交通事故防止	19
(12) 非常事態発生時における対処方法	19
(13) 海外渡航の届出	19
9. 医学部の国際交流・留学	19
10. 国家試験	20
11. 福利厚生	20

(1) 授業料の減免及び徴収猶予	20
(2) 奨学金制度	20
(3) 医学部会館	22
(4) 通学証明書・学生定期券申込書	22
(5) 学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）	22
(6) 学生教育研究災害傷害保険	23
(7) 損害賠償責任保険	23
(8) 国民年金への加入	23
12. 課外活動	23
(1) 団体の設立及び継続	23
(2) 課外活動と顧問教員について	23
13. 学術情報基盤図書館医学部分館の利用	24
(1) 学術情報基盤図書館ホームページ	24
(2) 開館時間・休館日	24
(3) 無人開館の利用について	24
(4) 図書館資料の貸出・返却について	24
(5) 資料（図書・雑誌等）の配置	24
(6) 図書館資料（図書・雑誌・電子リソース等）の探し方について	24
(7) 図書館のWebサービスについて	25
(8) 参考調査・利用支援（レファレンスサービス）	25
(9) グループ学習室・個室	25
(10) 複写・資料の借用	25
(11) 情報端末	25
(12) プリンター利用（オンデマンド端末）	25
(13) 全学認証 ID とパスワードについて	25
(14) 学外ネットワークからの利用について	25
(15) お知らせ・お願い	26
14. 保健管理センター医学部分室	26
(1) 設置目的	26
(2) センターの利用	26
高知大学岡豊キャンパスカーゲート及び駐車場案内図	27

Ⅱ. 修 学

1. 医学部の使命	29
-----------	----

2. 医学部の教育理念	29
3. 卒業までに身に付けてほしい10+1の能力	29
4. 履修に関する基本事項	29
5. 医学科の教育課程	30
6. 看護学科の教育課程	31
7. 授業日程と授業時間割	31
8. 教務情報システム『KULAS（クラス）』	31
9. 履修登録（WEB履修登録）	31
10. 欠席届と特例欠席申請書	31
11. 履修上の諸注意	32
12. 補講期間	33
13. 地域関連科目	33
14. 単位互換制度	33
15. 医学科における進級の認定	34
16. 看護学科における進級の認定	34
17. 修業年限、在学期間及び休学期間	34
18. 試験と成績評価	34
19. 不正行為	35
20. 追試験	35
21. 再試験	35
22. 成績通知	35
23. 成績評価の異議申し立て	35
24. G P A	36
25. 気象警報発表・避難指示等発令時の授業及び定期試験等の取扱い	36
26. Research Course	37
27. 保健師国家試験受験資格	37
28. 教職案内	38
履修方法	38
養護実習	40
教職実践演習	41
養護教諭二種免許状の申請	41
29. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 応用基礎レベル	41
30. 地方創生推進士	42
31. 黒潮医療人認定証(黒潮医療人養成プロジェクトに係る高知大学医学部長表彰制度)	42

【教職実践演習】（平成22年度以降入学生で教育職員免許状取得を希望する者）

1. 教職実践演習の趣旨

教育職員免許法施行規則の改正に伴い、平成22年度入学生から「教職実践演習」（2単位）が必修科目となっています。「教職実践演習」は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学として最終的に確認するものであり、いわば、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものです。

2. 教職実践演習の履修時期

教職実践演習の趣旨を踏まえ、教職実践演習の受講は4年次の第2学期と定められています。

また、教育職員免許状取得に必要な科目の履修を始めてから、教職実践演習の授業を履修するまでの間に各自で「履修カルテ」を作成しなければなりません。

「履修カルテ」の作成については、オリエンテーション等で連絡しますので、必ず出席してください。

3. 教職実践演習の履修の条件

- 1) 実習校で行う「養護実習」を終了していること。
- 2) 年度当初において、当該年度の履修により免許状取得に必要な単位をすべて修得し、卒業することが可能であること。
- 3) 履修開始の時点で前2項の要件を満たしている場合であっても、「養護実習」において不合格となった場合には、「教職実践演習」は履修中止とし、単位を認めないものとする。

【養護教諭二種免許状の申請】

保健師国家試験に合格し、保健師の登録をした者で、以下の科目について単位修得した者は、各自で都道府県教育委員会への申請することにより養護教諭二種免許状を得ることができます。公衆衛生看護学コースを志望し、養護教諭二種免許状取得を希望する者は1年次から履修しておく必要があります。

- ・「憲法を学ぶ」 2単位
- ・「スポーツ科学講義」・「スポーツ科学実技」から 2単位
- ・「英会話Ⅰ・Ⅱ」 2単位
- ・「情報とデータリテラシー」 2単位

「英会話Ⅰ・Ⅱ」及び「情報とデータリテラシー」については、編入生は個別の対応が必要ですので、履修登録前に学生課教務係で確認するようにしてください。

29. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 応用基礎レベル

高知大学医学部数理・データサイエンス・AI教育プログラム 応用基礎レベルは、高知大学リテラシーレベルの発展として、医学・看護学の各分野の課題を、数理・データサイエンス・AI教育を応用・活用して解決する“実践的能力”を習得することを目指します。

本プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」に認定されています。（認定の有効期限：令和12年3月31日まで）

◆身に付けられる能力

医療DXを推進する人材を育成するため、数理モデル、AI、データサイエンス技術の理論についての体系的な基礎知識と基礎的なプログラミング技術の習得、及び医療分野におけるAIやデータサイエンス技術の応用例や将来展望に関する知識習得を目的とする。

◆プログラムと修了要件

①データ表現とアルゴリズム、②AI・データサイエンス基礎、③AI・データサイエンス実践の3つの内容について、各科目を通して学ぶことができます。

令和7年度以降入学生は、医学部専門科目と共通教育において開講される、下記の学科別に示されている科目をすべて履修し単位を修得することにより、この応用基礎レベルのプログラム修了者として認定されます。

医学科（令和8年度入学生～）

	専門科目	共通教育
1年次	EBMI、基礎社会医学	データ解析プログラミング入門 ※
2年次	EBMⅡ	※データ解析プログラミング入門は
3年次		2・3年次での履修も可能

医学科（令和7年度入学生）

	専門科目	共通教育
1年次	数理科学Ⅰ・Ⅱ、EBMI	データ解析プログラミング入門 ※
2年次	基礎社会医学	※データ解析プログラミング入門は
3年次	EBMⅡ	2・3年次での履修も可能

看護学科（令和7年度入学生～）

	専門科目	共通教育
1年次	看護データサイエンス	データサイエンス入門、 データ解析プログラミング入門 ※
2年次		※データ解析プログラミング入門は
3年次	保健統計学	2・3年次での履修も可能

高知大学医学部医学科授業科目履修規則

平成16年4月1日
規則第228号

最終改正 令和8年2月20日規則第80号

(趣旨)

第1条 この規則は、高知大学医学部規則（以下「医学部規則」という。）第7条、第11条、第12条、第14条、第15条及び第22条の規定に基づき、医学部医学科（以下「医学科」という。）の教育課程を定めるとともに、医学科における授業科目の履修に関し必要な事項を定める。

(教育課程)

第2条 医学科の教育課程は、別表1のとおりとする。

(授業科目の種類、履修方法及び卒業要件単位数)

第3条 授業科目の種類は、履修の方法により、必修科目、選択科目及び自由科目とする。

2 必修科目は、原則として、当該授業科目の配当年次で履修するものとする。

3 選択科目の履修方法及び卒業の要件としての修得単位数は、別表1のとおりとする。

4 臨床実習Ⅰは、公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する診療参加型臨床実習前の共用試験（C B T 及び O S C E）に合格しなければ、履修することができない。共用試験に関し必要な事項は、別に定める。

(単位修得の認定)

第4条 医学部規則第11条及び第12条に規定する授業科目の単位修得の認定は、講義、演習及び実技については3分の2以上、実験及び実習にあつては5分の4以上の授業に出席した者について行うことを原則とする。

(進級及び卒業要件の認定)

第5条 医学部規則第14条に規定する進級の認定及び医学部規則第15条に規定する卒業要件の認定は、別表2左欄に掲げる時期に行い、同表中欄に掲げる授業科目の単位を修得し、試験に合格した者について認定する。同表中欄に掲げる授業科目の単位未修得者、試験の不合格者については、同表右欄に掲げる措置をとるものとする。

(単位の算定)

第6条 科目に対する単位数は次の基準によって計算する。

(1) 講義、演習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、

講義及び演習に関しては 15 時間の授業をもって 1 単位とすることができる。

(2) 実験及び実習については、40時間の授業をもって 1 単位とする。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、医学科における授業の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成15年 9 月30日に国立大学法人法等の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成15年法律第117号）第 2 条の規定による廃止前の国立学校設置法の一部を改正する法律（平成15年法律第29号）附則第 2 項の規定により存続することとされていた高知医科大学に学部卒業を目的として在学し、引き続きこの規則の施行日に在学する学生の教育課程の履修については、なお従前の例による。
- 3 編入学等によって前項に規定する学生と同じ学年に入学等を許可された者に係る教育課程の履修については、当該者と同じ学年の者に係る前項の例により取り扱うものとする。

附 則

- 1 この規則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 14 年度入学生及び平成 15 年度入学生に対するこの規則の適用については、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成17年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成18年度以前入学生に対する別表 1 の適用は、従前の例による。

附 則（平成 20 年 2 月 5 日規則第 53 号）

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 19 年度以前の入学生に対する別表 1 及び別表 2 の適用については、なお従前の例による。

附 則（平成 20 年 3 月 20 日規則第 63 号）

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 19 年度以前の入学生に対する別表 4 の適用については、なお従前の例による。

附 則（平成 21 年 2 月 24 日規則第 58 号）

この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 21 年度以前の第 3 年次編入学生については、改正後のこの規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 22 年 3 月 19 日規則第 126 号）

- 1 この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 21 年度以前の入学生については、改正後のこの規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 24 年 1 月 30 日規則第 53 号）

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 23 年度以前の入学生については、改正後の規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 26 年 1 月 27 日規則第 68 号）

この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 25 年度以前の入学生については、改正後の規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 28 年 1 月 25 日規則第 66 号）

- 1 この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 27 年度以前の入学生については、改正後の規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 2 編入学等によって前項ただし書きに規定する学生と同じ学年に入学等を許可された者に係る教育課程の履修については、当該者と同じ学年の者に係る前項の例により取り扱うものとする。

附 則（平成 30 年 1 月 22 日規則第 41 号）

- 1 この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 29 年度以前の入学生については、改正後の規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 2 編入学等によって前項ただし書きに規定する学生と同じ学年に入学等を許可された者については、当該者と同じ学年の者に係る前項の例により取り扱うものとする。

附 則（令和 5 年 10 月 25 日規則第 36 号）

この規則は、令和 5 年 10 月 25 日から施行し、令和 5 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（令和 6 年 2 月 26 日規則第 52 号）

この規則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。ただし、令和 5 年度以前の入学生及び編入学等によって同学生と同じ学年に入学等を許可された者については、この規則による改正後の高知大学医学部医学科授業科目履修規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（令和 7 年 2 月 21 日規則第 69 号）

この規則は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。ただし、令和 6 年度以前の入学生及び編入学等によって同学生と同じ学年に入学等を許可された者については、この規則による改正後の高知大学医学部医学科授業科目履修規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（令和 8 年 2 月 20 日規則第 80 号）

（施行日）

第 1 条 この規則は、令和 8 年 4 月 1 日から施行する。ただし、令和 7 年度以前の入学生及び編入学等によって同学生と同じ学年に入学等を許可された者については、この規則による改正後の高知大学医学部医学科授業科目履修規則の規定にかかわらず、次条に定めるものを除き、なお従前の例による。

（配当年次の経過措置）

第 2 条 令和 7 年度以前の入学生及び編入学等によって同学生と同じ学年に入学等を許可された者のうち、留年により 1 年次で令和 8 年度以降の入学生と同じ学年になった者（以下「1 年次留年者」という。）が附則別表 1 に掲げる授業科目の単位を未修得の場合、1 年次留年者は、当該授業科目については、原則として附則別表 1 に掲げる当該授業科目の配当年次に履修するものとする。

2 令和 7 年度以前の入学生及び編入学等によって同学生と同じ学年に入学等を許可された者のうち、留年により 2 年次で令和 8 年度以降の入学生と同じ学年になった者（以下「2 年次留年者」という。）が附則別表 2 に掲げる授業科目の単位を未修得の場合、2 年次留年者は、当該授業科目については、原則として附則別表 2 に掲げる当該授業科目の配当年次に履修するものとする。

3 令和 7 年度以前の入学生及び編入学等によって同学生と同じ学年に入学等を許可された者のうち、留年により 3 年次で令和 8 年度以降の入学生と同じ学年になった者（以下「3 年次留年者」という。）が附則別表 3 に掲げる授業科目の単位を未修得の場合、3 年次留年者は、当該授業科目については、原則として附則別表 3 に掲げる当該授業科目の配当年次に履修するものとする。

附則別表 1 1 年次留年者に係る未修得の授業科目の配当年次（附則第 2 条第 1 項関係）

区分	コア項目	授業科目	修得区分	単位数（時間数）					
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
専門科目	B	E B M II	必修		1 (30)				
	C	遺伝子医学実習	必修			1 (40)			
	C	解剖学 I	必修	6 (240)					

	C	生化学実習	必修			1 (40)			
	C、D	生理学	必修	5 (150)					
	C、D	生理学実習	必修			2 (80)			
	C	微生物学実習	必修			1 (40)			
	B	基礎社会医学	必修	1 (30)					
	A	医療倫理Ⅱ	必修		1 (30)				
	C	病理学	必修		2 (60)				
	C	寄生虫学	必修		1 (30)				
	C	免疫学	必修		2 (60)				
	B	応用社会医学	必修		1 (30)				
	B	保健医療制度	必修		1 (30)				
	B、F	地域医療学	必修		1 (30)				
	F	臨床検査医学	必修		1 (30)				
	E	法医学	必修			1 (30)			
	E	法医学実習	必修			1 (40)			
	D	乳腺	必修			1 (30)			
	D	呼吸器病学(内科学・外科学)	必修			2 (60)			
	D、E	神経病学	必修			1 (30)			
	D、E	老年病学	必修			1 (30)			
	D、F	循環器病学(内科学・外科学)	必修			2 (60)			
	E	小児科学	必修			1 (30)			
	D	皮膚科学	必修			1 (30)			
	D	眼科学	必修			1 (30)			
	D	神経精神科学	必修			1 (30)			
	E	臨床感染症学	必修			1 (30)			
	A	医療安全学	必修		1 (30)				
	B、F	救急医学総論	必修			1 (30)			
	F	臨床推論学	必修				2 (60)		

附則別表 2 2 年次留年者に係る未修得の授業科目の配当年次（附則第 2 条第 2 項関係）

区分	コア項目	授業科目	修得区分	単位数（時間数）					
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
専門科目	B	E B MⅡ	必修		1 (30)				
	C	遺伝子医学実習	必修			1 (40)			
	C	生化学実習	必修			1 (40)			
	C、D	生理学実習	必修			2 (80)			
	C	微生物学実習	必修			1 (40)			
	A	医療倫理Ⅱ	必修		1 (30)				
	C	病理学	必修		2 (60)				
	C	寄生虫学	必修		1 (30)				
	C	免疫学	必修		2 (60)				
	B	応用社会医学	必修		1 (30)				

	B	保健医療制度	必修		1(30)				
	B、F	地域医療学	必修		1(30)				
	F	臨床検査医学	必修		1(30)				
	E	法医学	必修			1(30)			
	E	法医学実習	必修			1(40)			
	D	乳腺	必修			1(30)			
	D	呼吸器病学(内科学・外科学)	必修			2(60)			
	D、E	神経病学	必修			1(30)			
	D、E	老年病学	必修			1(30)			
	D、F	循環器病学(内科学・外科学)	必修			2(60)			
	E	小児科学	必修			1(30)			
	D	皮膚科学	必修			1(30)			
	D	眼科学	必修			1(30)			
	D	神経精神科学	必修			1(30)			
	E	臨床感染症学	必修			1(30)			
	A	医療安全学	必修		1(30)				
	B、F	救急医学総論	必修			1(30)			
	F	臨床推論学	必修				2(60)		

附則別表3 3年次留年者に係る未修得の授業科目の配当年次（附則第2条第3項関係）

区分	コア項目	授業科目	修得区分	単位数（時間数）					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
専門科目	E	法医学	必修			1(30)			
	E	法医学実習	必修			1(40)			
	D	乳腺	必修			1(30)			
	D	呼吸器病学(内科学・外科学)	必修			2(60)			
	D、E	神経病学	必修			1(30)			
	D、E	老年病学	必修			1(30)			
	D、F	循環器病学(内科学・外科学)	必修			2(60)			
	E	小児科学	必修			1(30)			
	D	皮膚科学	必修			1(30)			
	D	眼科学	必修			1(30)			
	D	神経精神科学	必修			1(30)			
	E	臨床感染症学	必修			1(30)			
	A	医療安全学	必修			1(30)			
	B、F	救急医学総論	必修			1(30)			
	F	臨床推論学	必修				2(60)		

別表1 教育課程表(医学科)(第2条、第3条第3項関係)

区分	コア項目 又は 細目区分等	授業科目	修得区分		単位数（時間数）						卒業要件 単位数	
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年		
大学 で の 学 び か た 科 目	大学基礎論	大学基礎論	必修		2(30)						30	
	学問基礎論	学問基礎論	必修		2(30)							
	課題探求実践セ ミナー	課題探求実践セミナー	必修		2(30)							
国 際 シ ョ ン コ ミ ュ ニ ケ ー	基軸英語	大学英語入門	必修		2(30)							
		英会話Ⅰ	必修		1(30)							
		英会話Ⅱ	必修		1(30)							
	国際英語	選択	【※1】									
	初修外国語・日 本語	選択										
A I 科 目		情報とデータリテラシー	必修		2(30)							
		データサイエンス入門	必修		2(30)							
生 き る 力 を 育 む 科 目	生活		選択	【※1】								
	医療・健康・ス ポーツ		選択									
	キャリア形成		選択									
	芸術		選択									
視 野 を 広 げ る 科 目	人文・社会科学 系領域		選択									
	自然科学系領域	基礎生物学	選必		2(30)							
		基礎物理学	選必		2(30)							
			選択									
	複合領域		選択									
専 門 科 目	A	臨床医学キャリア入門	必修			1(30)						
	A	研究医学キャリア入門	必修		1(30)							
	A	実践医学英語	必修		1(30)							
	C	医科物理学	必修		1(30)							
	C	有機化学	必修		1(30)							
	B	E B MⅠ	必修		2(60)							
	B	E B MⅡ	必修			1(30)						
	A～F	先端医療学リテラシーコースⅠ	選必	【※2】		3(120)						
	A～F	先端医療学リテラシーコースⅡ	選必				3(120)					
	A～F	先端医療学リテラシーコースⅢ	選必					1(40)				
	A	先端医療学実践コースⅠ	選必			3(120)						
	A	先端医療学実践コースⅡ	選必				3(120)					
	A	先端医療学実践コースⅢ	選必					1(40)				
	B	基礎社会医学	必修		1(30)							
	C	解剖学Ⅰ	必修		2(55)							
	C	解剖学Ⅱ	必修			4(110)						
	C	解剖学Ⅲ	必修			6(240)						
	C、D	生理学Ⅰ	必修		2(60)							
	C、D	生理学Ⅱ	必修			3(90)						
	C、D	生理学実習	必修				2(80)					
	C	遺伝子医学	必修		1(30)							
	C	遺伝子医学実習	必修			1(40)						
	C	生化学	必修		2(60)							
	C	生化学実習	必修			1(40)						
	C	微生物学	必修		2(60)							
	C	微生物学実習	必修			1(40)						

C	免疫学	必修		2(60)					
C	免疫学実習	必修			1(40)				
C	病理学Ⅰ	必修		2(60)					
C	病理学Ⅱ	必修			3(120)				
C	寄生虫学	必修		1(30)					
A	医療倫理Ⅰ	必修		1(30)					
A	医療倫理Ⅱ	必修		1(30)					
A	医療安全学	必修		1(30)					
B	応用社会医学	必修		1(30)					
B	保健医療制度	必修		1(30)					
B、F	地域医療学	必修		1(30)					
F	臨床検査医学と輸血・細胞治療学	必修		1(30)					
F	臨床症候学	必修		1(30)					
C	薬理学	必修			3(90)				
C	薬理学実習	必修			1(40)				
E	法医学	必修			1(30)				
E	法医学実習	必修			1(40)				
C	臨床遺伝病学	必修			1(30)				
C、E、F	外科学総論	必修			1(30)				
D	乳腺	必修			1(30)				
D	皮膚科学	必修			1(30)				
D	眼科学	必修			1(30)				
D	神経精神科学	必修			1(30)				
D	呼吸器病学	必修			2(60)				
D、E	神経病学	必修			1(30)				
D、E	老年病学	必修			1(30)				
D、F	循環器病学	必修			2(60)				
E	臨床免疫学・アレルギー病学	必修			1(30)				
E	小児科学	必修			1(30)				
E	臨床感染症学	必修			1(30)				
B、F	災害・救急医学	必修			1(30)				
E、F	臨床腫瘍学	必修			1(30)				
F	放射線医学（診断学）	必修			1(30)				
C、F	放射線医学（腫瘍学）	必修				1(30)			
D	血液病学	必修				1(30)			
D	腎臓病学	必修				1(30)			
D	内分泌・代謝学	必修				1(30)			
D	脳神経外科学	必修				1(30)			
D	泌尿器科学	必修				1(30)			
D	産科・婦人科学	必修				1(30)			
D	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	必修				1(30)			
D	歯科口腔外科学	必修				1(15)			
D、F	消化器病学	必修				2(60)			
D、F	整形外科学・リハビリテーション医学	必修				1(30)			
F	麻酔科学	必修				1(30)			
F	臨床薬理学	必修				1(30)			
F	臨床推論学	必修				2(60)			
F	基本的臨床技能実習	必修				3(120)			
G	E ME 初期臨床医学体験	必修		1(40)					
G	臨床体験実習Ⅰ	必修		2(80)					
G	臨床体験実習Ⅱ	必修			2(80)				
G	臨床体験実習Ⅲ	必修				2(80)			
G	臨床実習Ⅰ	必修						50(2000)	
G	臨床実習Ⅱ	必修							16(640)

自由科目	A	Research Course I ～ V	自由			5(150)	
					卒業要件単位数計		206

- 【※1】 国際コミュニケーション科目のうち国際英語及び初修外国語・日本語、生きる力を育む科目並びに視野を広げる科目は、3細目区分以上から、視野を広げる科目のうち自然科学系領域の「基礎生物学」又は「基礎物理学」の2単位を含めて16単位以上修得すること。なお、「スポーツ科学講義」及び「スポーツ科学実技」については合わせて4単位を卒業要件単位に組み入れることができる上限とする。
- 【※2】 選択必修科目から7単位修得すること。この場合においては、原則として「先端医療学リテラシーコースⅠ～Ⅲ」又は「先端医療学実践コースⅠ～Ⅲ」のいずれかの組合せを選択し履修すること。

【コア項目名称】

- A：基本事項
- B：医学・医療と社会
- C：医学一般
- D：人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療
- E：全身におよぶ生理的变化、病態、診断、治療
- F：診療の基本
- G：臨床実習

【修得区分】

必修：必修科目、 選必：選択必修科目、 選択：選択科目、 自由：自由科目

別表 2 進級及び卒業要件の認定(医学科)(第 5 条関係)

時期	対象となる授業科目等	単位未修得者等に対する措置
1 年次末	1 年次末までに履修が完了する必修科目	- 対象となる授業科目が未修得の場合、当該年次に留年させ、未修得科目を再履修させる。ただし、未修得科目が 1 科目の場合は、授業科目担当者の意見を勘案し、仮進級させることがある。 - 選択科目については一部を除き、3 年次末までに修得しなければならない。
2 年次末	2 年次末までに履修が完了する必修科目及び選択科目	
3 年次末	3 年次末までに履修が完了する必修科目及び選択科目	
4 年次末	4 年次末までに履修が完了する全科目 - 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する診療参加型臨床実習前の共用試験（C B T 及び O S C E）	- 対象となる授業科目が未修得の場合、留年させ、未修得科目を再履修させる。 - 診療参加型臨床実習前の共用試験（C B T 及び O S C E）について不合格になった場合は、留年させ、再受験させる。
6 年次末 (卒業要件の認定)	6 年次末までに履修が完了する全科目 - 臨床実習後 O S C E - 卒業試験	- 対象となる授業科目が未修得の場合、留年させ、未修得科目を再履修させるとともに、臨床実習後 O S C E 及び卒業試験を受験させる。 - 臨床実習後 O S C E 及び卒業試験において、いずれか一方でも不合格になった場合は、留年させ、両方を再受験させる。

＜医学科R7年度入学生用＞
＜看護学科科目＞
＜共通履修科目＞

医学部学生の手引

令和7年度

高知大学医学部

目 次

序文 医学部長 井上 啓史

令和7年度 年間行事予定表（医学部）	1
令和7年度 授業時間割表（医学科）	3
令和7年度 授業時間割表（看護学科）	9

I. 学生生活

1. 学生課	15
2. 医学教育創造センター	15
3. 教育関連委員会	16
4. アドバイザー教員制度及びオフィスアワー	16
5. 学生なんでも相談窓口	16
6. インクルージョン支援	17
7. 証明書、手続関係一覧	17
8. 一般的注意事項	17
(1) 掲示板	17
(2) 電子的掲示・通知	17
(3) 郵便物の授受	18
(4) 学生証の携帯	18
(5) ロッカーの貸与	18
(6) 校内の美化	18
(7) 拾得物・盗難	18
(8) 自動車駐車許可	18
(9) 交通事故防止	18
(10) 非常事態発生時における対処方法	20
(11) ネームプレートの着用	20
(12) 海外渡航の届出	20
9. 医学部の国際交流・留学	20
10. 国家試験	21
(1) 医師国家試験	21

(2) 保健師及び看護師国家試験	21
11. 福利厚生	21
(1) 授業料の減免及び徴収猶予	21
(2) 奨学金制度	22
(3) 医学部会館	23
(4) 通学証明書・学生定期券申込書	23
(5) 学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）	24
(6) 学生教育研究災害傷害保険	24
(7) 損害賠償責任保険	24
(8) 国民年金への加入	24
12. 課外活動	24
(1) 団体の設立及び継続	25
(2) 課外活動と顧問教員について	25
13. 学術情報基盤図書館医学部分館の利用	26
14. 保健管理センター医学部分室	28

Ⅱ. 修 学

1. 医学部の使命	29
2. 医学部の教育理念	29
3. 卒業までに身に付けてほしい10+1の能力	29
4. 履修に関する基本事項	29
5. 医学科の教育課程	30
6. Research Course	30
7. 先端医療学コースと大学院博士課程医学専攻MD-PhDコース	31
8. 看護学科の教育課程	31
9. 授業日程と授業時間割	32
10. 教務情報システム『KULAS（クラス）』	32
11. 履修登録（WEB 履修登録）	32
12. 欠席届と特例欠席申請書	32
13. 履修上の諸注意	33
14. 補講期間	34
15. 地域関連科目	34
16. 単位互換制度	34

17. 単位修得の認定	34
18. 医学科における進級の認定	35
19. 看護学科における進級の認定	35
20. 修業年限・在学期間及び休学期間	35
21. 試験と成績評価	35
22. 不正行為	36
23. 追試験	36
24. 再試験	36
25. 成績通知	36
26. 成績評価の意義申し立て	36
27. GPA	37
28. 気象警報発表・避難勧告等発令時の授業及び定期試験等の取扱い	37
29. 保健師国家試験受験資格	38
30. 教職案内	38
31. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 応用基礎レベル	41

Ⅲ. 規則等

高知大学医学部規則	43
高知大学医学部医学科授業科目履修規則	46
医学部医学科卒業時の達成指針	58
医学部医学科カリキュラム・ポリシー	59
医学部医学科ディプロマ・ポリシー	60
医学部医学科カリキュラムマップ、ナンバリングコード	61
医学部医学科授業担当教員一覧	63
高知大学医学部医学科授業実施細則	64
高知大学医学部看護学科授業科目履修規則	67
医学部看護学科カリキュラム・ポリシー	83
医学部看護学科ディプロマ・ポリシー	84
医学部看護学科カリキュラムマップ、ナンバリングコード	88
医学部看護学科授業担当教員一覧	91
高知大学医学部看護学科授業実施細則	91
医学部医学科授業実施細則第5条及び	
医学部看護学科授業実施細則第5条の取り扱いに関する申し合わせ	94

教職実践演習（平成22年度以降入学生で教育職員免許状取得を希望する者）

1. 教職実践演習の趣旨

教育職員免許法施行規則の改正に伴い、平成 22 年度入学生から「教職実践演習」（2 単位）が必修科目となっています。「教職実践演習」は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学として最終的に確認するものであり、いわば、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものです。

2. 教職実践演習の履修時期

教職実践演習の趣旨を踏まえ、教職実践演習の受講は 4 年次の第 2 学期と定められています。
また、教育職員免許状取得に必要な科目の履修を始めてから、教職実践演習の授業を履修するまでの間に各自で「履修カルテ」を作成しなければなりません。

「履修カルテ」の作成については、オリエンテーション等で連絡しますので、必ず出席してください。

3. 教職実践演習の履修の条件

- 1）実習校で行う「養護実習」を終了していること。
- 2）年度当初において、当該年度の履修により免許状取得に必要な単位をすべて修得し、卒業することが可能であること。
- 3）履修開始の時点で前 2 項の要件を満たしている場合であっても、「養護実習」において不合格となった場合には、「教職実践演習」は履修中止とし、単位を認めないものとする。

養護教諭二種免許状の申請

保健師国家試験に合格し、保健師の登録をした者で、以下の科目について単位修得した者は、各自で都道府県教育委員会への申請することにより養護教諭二種免許状を得ることができます。公衆衛生看護学コースを志望し、養護教諭二種免許状取得を希望する者は 1 年次から履修しておく必要があります。

- ・「憲法を学ぶ」 2 単位
- ・「スポーツ科学講義」・「スポーツ科学実技」から 2 単位
- ・「英会話Ⅰ・Ⅱ」 2 単位
- ・「情報とデータリテラシー」 2 単位

「英会話Ⅰ・Ⅱ」及び「情報とデータリテラシー」については、編入生は個別の対応が必要ですので、履修登録前に学生課教務係で確認するようにしてください。

31. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 応用基礎レベル

高知大学医学部数理・データサイエンス・AI 教育プログラム 応用基礎レベルは、リテラシーレベルの発展として、医学・看護学の各分野の課題を、数理・データサイエンス・AI 教育を応用・活用することで解決する実践的能力を習得することを目指し、1.データ表現とアルゴリズム、2.AI・データサイエンス基礎、3.AI・データサイエンス実践の 3 つの内容について、各科目を通して学ぶことができます。

令和 7 年度以降入学生は、医学部と共通教育において開講される、下記の学科別に示されている科目をすべて履修し単位を修得することにより、この応用基礎レベルのプログラム修了者として認定されます。

なお、この教育プログラムは医学部として令和 8 年に文部科学省へ認定申請を予定しています。

医学科

	専門科目	共通教育
1 年次	数理科学Ⅰ、 数理科学Ⅱ EBMI	データ解析プログラミング入門 ※
2 年次	基礎社会医学	※データ解析プログラミング入門は 2・3 年次での履修も可能
3 年次	EBMⅡ	

看護学科

	専門科目	共通教育
1 年次	看護データサイエンス	データ解析プログラミング入門 ※
2 年次		※データ解析プログラミング入門は 2・3 年次での履修も可能
3 年次	保健統計学	

高知大学医学部医学科授業科目履修規則

平成16年4月1日
規則第228号

最終改正 令和7年2月21日規則第69号

(趣旨)

第1条 この規則は、高知大学医学部規則（以下「医学部規則」という。）第7条、第11条、第12条、第14条、第15条及び第22条の規定に基づき、医学部医学科（以下「医学科」という。）の教育課程を定めるとともに、医学科における授業科目の履修に関し必要な事項を定める。

(教育課程)

第2条 医学科の教育課程は、別表1のとおりとする。

(授業科目の種類、履修方法及び卒業要件単位数)

第3条 授業科目の種類は、履修の方法により、必修科目、選択科目及び自由科目とする。

2 必修科目は、原則として、当該授業科目の配当年次で履修するものとする。

3 選択科目の履修方法及び卒業の要件としての修得単位数は、別表1のとおりとする。

4 臨床実習Ⅰは、公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する診療参加型臨床実習前の共用試験（CBT及びOSCE）に合格しなければ、履修することができない。共用試験に関し必要な事項は、別に定める。

(単位修得の認定)

第4条 医学部規則第11条及び第12条に規定する授業科目の単位修得の認定は、講義、演習及び実技については3分の2以上、実験及び実習にあつては5分の4以上の授業に出席した者について行うことを原則とする。

(進級及び卒業要件の認定)

第5条 医学部規則第14条に規定する進級の認定及び医学部規則第15条に規定する卒業要件の認定は、別表2左欄に掲げる時期に行い、同表中欄に掲げる授業科目の単位を修得し、試験に合格した者について認定する。同表中欄に掲げる授業科目の単位未修得者、試験の不合格者については、同表右欄に掲げる措置をとるものとする。

(単位の算定)

第6条 科目に対する単位数は次の基準によって計算する。

(1) 講義、演習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、

大学での学びかた科目、国際コミュニケーション科目、数理・データサイエンス・AI科目、生きる力を育む科目及び視野を広げる科目の講義、演習に関しては15時間の授業をもって1単位とすることができる。

(2) 実験及び実習については、40時間の授業をもって1単位とする。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、医学科における授業の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 平成15年9月30日に国立大学法人法等の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律(平成15年法律第117号)第2条の規定による廃止前の国立学校設置法の一部を改正する法律(平成15年法律第29号)附則第2項の規定により存続することとされていた高知医科大学に学部卒業を目的として在学し、引き続きこの規則の施行日に在学する学生の教育課程の履修については、なお従前の例による。
- 3 編入学等によって前項に規定する学生と同じ学年に入学等を許可された者に係る教育課程の履修については、当該者と同じ学年の者に係る前項の例により取り扱うものとする。

附 則

- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 平成14年度入学生及び平成15年度入学生に対するこの規則の適用については、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。ただし、平成18年度以前入学生に対する別表1の適用は、従前の例による。

附 則(平成20年2月5日規則第53号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。ただし、平成19年度以前の入学生に対する別表1及び別表2の適用については、なお従前の例による。

附 則(平成20年3月20日規則第63号)

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 19 年度以前の入学生に対する別表 4 の適用については、なお従前の例による。

附 則（平成 21 年 2 月 24 日規則第 58 号）

この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 21 年度以前の第 3 年次編入学生については、改正後のこの規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 22 年 3 月 19 日規則第 126 号）

- 1 この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 21 年度以前の入学生については、改正後のこの規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 24 年 1 月 30 日規則第 53 号）

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 23 年度以前の入学生については、改正後の規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 26 年 1 月 27 日規則第 68 号）

この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 25 年度以前の入学生については、改正後の規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 28 年 1 月 25 日規則第 66 号）

- 1 この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 27 年度以前の入学生については、改正後の規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 2 編入学等によって前項ただし書きに規定する学生と同じ学年に入学等を許可された者に係る教育課程の履修については、当該者と同じ学年の者に係る前項の例により取り扱うものとする。

附 則（平成 30 年 1 月 22 日規則第 41 号）

- 1 この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 29 年度以前の入学生については、改正後の規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 2 編入学等によって前項ただし書きに規定する学生と同じ学年に入学等を許可された者については、当該者と同じ学年の者に係る前項の例により取り扱うものとする。

附 則（令和 5 年 10 月 25 日規則第 36 号）

この規則は、令和 5 年 10 月 25 日から施行し、令和 5 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（令和 6 年 2 月 26 日規則第 52 号）

この規則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。ただし、令和 5 年度以前の入学生及び編

入学等によって同学生と同じ学年に入学等を許可された者については、この規則による改正後の高知大学医学部医学科授業科目履修規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（令和 7 年 2 月 21 日規則第 69 号）

この規則は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。ただし、令和 6 年度以前の入学生及び編入学等によって同学生と同じ学年に入学等を許可された者については、この規則による改正後の高知大学医学部医学科授業科目履修規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表1 教育課程表(医学科)(第2条、第3条第3項関係)

区分	コア項目 又は 細目区分等	授業科目	修得区分		単位数（時間数）						卒業要件 単位数
					1年	2年	3年	4年	5年	6年	
び大学 かたの 科目学	大学基礎論	大学基礎論	必修		2(30)						30
	学問基礎論	学問基礎論	必修		2(30)						
	課題探求実践セ ミナー	課題探求実践セ ミナー	必修		2(30)						
国際 シ ョ ン 科 目 ニ ケ ー	基軸英語	大学英語入門	必修		2(30)						
		英会話Ⅰ	必修		1(30)						
		英会話Ⅱ	必修		1(30)						
	国際英語		選択	【※1】							
	初修外国語・日 本語		選択								
A I 科 目 ・ 数 理 ・ エ タ ・		情報とデータリテラシー	必修		2(30)						
		データサイエンス入門	必修		2(30)						
生 き る 力 を 育 む 科 目	生活		選択	【※1】							
	医療・健康・ス ポーツ		選択								
	キャリア形成		選択								
	芸術		選択								
視 野 を 広 げ る 科 目	人文・社会科学 系領域		選択								
	自然科学系領域		選択								
	複合領域		選択								
専 門 科 目	A	医学概論	必修		2(60)						195
	A	実践医学英語	必修		1(30)						
	A	国際英語	選必	【※2】		1(30)					
	A	研究医学英語	選必			1(30)					
	A	読解英語	選必			1(30)					
	B	数理科学Ⅰ	必修		1(30)						
	B	数理科学Ⅱ	必修		1(30)						
	C	医科物理学Ⅰ	必修		1(30)						
	C	医科物理学Ⅱ	必修		1(30)						
	C	生命現象化学	必修		1(30)						
	C	医科生物科学Ⅰ	必修		1(30)						
	C	医科生物科学Ⅱ	必修		1(30)						
	C	医科生物学実習	必修		1(40)						
	B	EBMⅠ	必修		2(60)						
	B	EBMⅡ	必修				1(30)				
	A～F	統合医学Ⅰ	必修		2(80)						
	A～F	統合医学Ⅱ	選必	【※3】		3(120)					
	A～F	統合医学Ⅲ	選必				3(120)				
	A～F	統合医学Ⅳ	選必					3(120)			
	A	先端医療学コースⅡ	選必			3(120)					
	A	先端医療学コースⅢ	選必				3(120)				
	A	先端医療学コースⅣ	選必					3(120)			
	C	遺伝子医学	必修			1(30)					
	C	遺伝子医学実習	必修			1(40)					
	C	細胞分子生物学	必修			1(30)					
	C	解剖学Ⅰ	必修			6(240)					
	C	解剖学Ⅱ	必修			6(240)					
	C	生化学	必修			2(60)					
	C	生化学実習	必修			1(40)					
	C、D	生理学	必修			5(150)					
	C、D	生理学実習	必修			2(80)					

C	微生物学	必修			2(60)				
C	微生物学実習	必修			1(40)				
B	基礎社会医学	必修			1(30)				
A	医療倫理Ⅰ	必修			1(30)				
A	医療倫理Ⅱ	必修				1(30)			
F	漢方医学	必修				1(30)			
C	病理学	必修				2(60)			
C	病理学実習	必修				3(120)			
C	病理CPC演習	必修				1(30)			
C	寄生虫学	必修				1(30)			
C	免疫学	必修				2(60)			
C	免疫学実習	必修				1(40)			
C	薬理学	必修				3(90)			
C	薬理学実習	必修				1(40)			
B	応用社会医学	必修				1(30)			
B	保健医療制度	必修				1(30)			
B、F	地域医療学	必修				1(30)			
C、E、F	外科学総論	必修				1(30)			
C	臨床遺伝病学総論	必修				1(30)			
E、F	臨床腫瘍学総論	必修				1(30)			
E	臨床免疫学・アレルギー病学	必修				1(30)			
F	臨床検査医学	必修				1(30)			
F	画像診断学基礎論	必修				1(30)			
C、F	放射線医学	必修					1(30)		
B	社会医学演習	必修					2(60)		
E	中毒学	必修					1(30)		
E	法医学	必修					1(30)		
E	法医学実習	必修					1(40)		
D	乳腺	必修					1(30)		
D	血液病学	必修					1(30)		
D	呼吸器病学(内科学・外科学)	必修					2(60)		
F	移植医学と輸血	必修					1(30)		
D、E	神経病学	必修					1(30)		
D、E	老年病学	必修					1(30)		
D、F	循環器病学(内科学・外科学)	必修					2(60)		
D、F	消化器病学(内科学・外科学)	必修					2(60)		
D	腎臓病学	必修					1(30)		
D	内分泌・代謝学	必修					1(30)		
E	小児科学	必修					1(30)		
D	脳神経外科学	必修					1(30)		
D	皮膚科学	必修					1(30)		
D、F	整形外科学・リハビリテーション医学	必修					1(30)		
D	泌尿器科学	必修					1(30)		
D	産科・婦人科学	必修					1(30)		
D	眼科学	必修					1(30)		
D	耳鼻咽喉科学	必修					1(30)		
D	歯科口腔外科学	必修					1(30)		
D	神経精神科学	必修					1(30)		
E	臨床感染症学	必修					1(30)		
A	医療安全学	必修					1(30)		
B、F	救急医学総論	必修					1(30)		
F	麻酔科学	必修					1(30)		
F	臨床薬理学	必修					1(30)		
F	臨床症候学Ⅰ	必修			1(30)				

	F	臨床症候学Ⅱ	必修				2(60)			
	F	臨床推論学	必修				2(60)			
	F	基本的診療技能	必修				2(60)			
	F	基本的診療技能実習	必修					3(120)		
	A	医療コミュニケーション学	必修					1(30)		
	G	EME初期臨床医学体験	必修		1(40)					
	G	臨床体験実習Ⅰ	必修		2(80)					
	G	臨床体験実習Ⅱ	必修			2(80)				
	G	臨床体験実習Ⅲ	必修				2(80)			
	G	臨床体験実習Ⅳ	必修					2(80)		
	G	臨床実習Ⅰ	必修						44(1760)	
	G	臨床実習Ⅱ	必修							16(640)
自由科目	A～F	統合医学総論	自由							3(90)
	A	Research CourseⅠ～Ⅴ	自由			5(150)				
					卒業要件単位数計					225

- 【※1】 国際コミュニケーション科目のうち国際英語及び初修外国語・日本語、生きる力を育む科目並びに視野を広げる科目は、3細目区分以上から16単位以上修得すること。なお、「スポーツ科学講義」及び「スポーツ科学実技」については合わせて4単位を卒業要件単位に組み入れることができる上限とする。
- 【※2】 選択必修科目から1単位以上修得すること。
- 【※3】 選択必修科目から9単位修得すること。この場合においては、原則として「統合医学Ⅱ～Ⅳ」又は「先端医療学コースⅡ～Ⅳ」のいずれかの組合せを選択し履修すること。

【コア項目名称】

- A：基本事項
- B：医学・医療と社会
- C：医学一般
- D：人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療
- E：全身におよぶ生理的变化、病態、診断、治療
- F：診療の基本
- G：臨床実習

【修得区分】

必修：必修科目、 選必：選択必修科目、 選択：選択科目、 自由：自由科目

別表 2 進級及び卒業要件の認定(医学科)(第 5 条関係)

時期	対象となる授業科目等	単位未修得者等に対する措置
1 年次末	1 年次末までに履修が完了する必修科目	対象となる授業科目が未修得の場合、当該年次に留年させ、未修得科目を再履修させる。選択科目については一部を除き、3 年次末までに修得しなければならない。
2 年次末	2 年次末までに履修が完了する必修科目及び選択科目	
3 年次末	3 年次末までに履修が完了する必修科目及び選択科目	
4 年次末	・ 4 年次末までに履修が完了する全科目 ・ 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する診療参加型臨床実習前の共用試験（C B T 及び O S C E）	・ 対象となる授業科目が未修得の場合、留年させ、未修得科目を再履修させる。 ・ 診療参加型臨床実習前の共用試験（C B T 及び O S C E）について不合格になった場合は、留年させ、再受験させる。
6 年次末 (卒業要件の認定)	・ 6 年次末までに履修が完了する全科目 ・ 臨床実習後 O S C E ・ 卒業試験	・ 対象となる授業科目が未修得の場合、留年させ、未修得科目を再履修させるとともに、臨床実習後 O S C E 及び卒業試験を受験させる。 ・ 臨床実習後 O S C E 及び卒業試験において、いずれか一方でも不合格になった場合は、留年させ、両方を再受験させる。

高知大学医学部看護学科授業科目履修規則

平成16年4月1日
規則第229号

最終改正 令和7年2月21日規則第69号

(趣旨)

第1条 この規則は、高知大学医学部規則（以下「医学部規則」という。）第7条、第11条、第12条、第14条及び第15条の規定に基づき、医学部看護学科（以下「看護学科」という。）の教育課程を定めるとともに、看護学科における授業科目の履修に関し必要な事項を定める。

(教育課程)

第2条 看護学コースの教育課程は別表1のとおりとし、公衆衛生看護学コースの教育課程は別表2のとおりとする。

(授業科目の種類、履修方法及び卒業要件単位数)

第3条 授業科目の種類は、履修の方法により、必修科目、選択科目及び自由科目とする。

2 必修科目は、原則として、当該授業科目の配当年次で履修するものとする。

3 3年次に開設される実習科目の履修に当たっては、3年次の第1学期末までに終わる必修科目（公衆衛生看護学コースの保健師資格関連科目を除く。）の全ての単位を修得していなければならない。

4 選択科目の履修方法及び卒業の要件としての修得単位数は、別表1及び別表2のとおりとする。

(単位修得の認定)

第4条 医学部規則第11条及び第12条に規定する授業科目の単位修得の認定は、講義及び演習については3分の2以上、実習にあつては5分の4以上の授業に出席したものについて行うことを原則とする。

(進級の認定)

第5条 医学部規則第14条に規定する進級の認定は、別表3左欄に掲げる時期に行い、同表中欄に掲げる授業科目の単位を修得した者について進級を認める。同表中欄に掲げる授業科目の単位未修得者については、同表右欄に掲げる措置をとるものとする。

(単位の算定)

第6条 科目に対する単位数は、次の基準によって計算する。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、30時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (2) 演習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、演習に関しては15時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 実習については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、看護学科専門科目以外の実習については、30時間以上の授業をもって1単位とすることができる。

(教育職員免許状)

第7条 養護教諭一種免許状取得希望者は、次の各号に規定する科目の単位を修得しなければならない。

- (1) 養護に関する科目

別表4に定める科目の中から、必修科目35単位を修得しなければならない。

- (2) 教育の基礎的理解に関する科目等

別表5に定める科目27単位を修得しなければならない。

- (3) 教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）第66条の6に定める科目

国際コミュニケーション科目の中から「英会話Ⅰ」1単位及び「英会話Ⅱ」1単位並びに数理・データサイエンス・AI科目の中から「情報とデータリテラシー」2単位を修得するとともに、生きる力を育む科目の中から「スポーツ科学講義」又は「スポーツ科学実技」2単位及び視野を広げる科目の中から「憲法を学ぶ」2単位を修得しなければならない。

- 2 「養護実習」は、前年度までに別表4に定める科目のうち「学校保健論」1単位、「養護概説」2単位及び「食生活論」1単位を修得済みで、かつ、前年度までに別表5に定める科目について「教育学・教育課程概論」2単位、「教職入門」2単位、「教育制度論」2単位、「教育心理学概論」2単位、「特別支援教育入門」2単位、「生徒指導（養護）」2単位及び「教育相談」2単位のすべてを含み18単位以上を修得済みで養護実習事前指導を終了している者のみ受講することができる。

- 3 「教職実践演習（養護）」は、養護実習を終了又は年度内に終了見込みの者で、年度当初において、当該年度の履修により教育職員免許状取得に必要な単位をすべて修得し、卒業することが可能な状態である者のみ受講することができる。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、看護学科における授業の実施に関し必要な事項は、

別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 平成15年9月30日に国立大学法人法等の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成15年法律第117号）第2条の規定による廃止前の国立学校設置法の一部を改正する法律（平成15年法律第29号）附則第2項の規定により存続することとされていた高知医科大学に学部の卒業を目的として在学し、引き続きこの規則の施行日に在学する学生の教育課程の履修については、なお従前の例による。
- 3 編入学等によって前項に規定する学生と同じ学生に入学等を許可された者に係る教育課程の履修については、当該者と同じ学年の者に係る前項の例により取り扱うものとする。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。ただし、平成18年度以前入学生に対する別表1の適用は、従前の例による。

附 則（平成20年2月5日規則第54号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。ただし、平成19年度以前入学生については、改正後の本規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成20年6月17日規則第20号）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。ただし、平成20年度以前入学生については、改正後の本規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成21年3月6日規則第81号）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。ただし、平成20年度以前入学生については、改正後の本規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成22年2月23日規則第125号）

この規則は、平成22年4月1日から施行する。ただし、平成21年度以前の入学生については、改正後の本規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成22年10月25日規則第40号）

この規則は、平成22年10月25日から施行する。

附 則（平成23年 1 月24日規則第63号）

この規則は、平成23年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成22年度以前の入学生については、改正後の本規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成23年 7 月25日規則第21号）

この規則は、平成24年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成23年度以前の入学生については、改正後の本規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成24年 1 月30日規則第54号）

この規則は、平成24年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成23年度以前の入学生については、改正後の本規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成25年 1 月23日規則第60号）

この規則は、平成25年 1 月23日から施行する。

附 則（平成25年 9 月30日規則第46号）

この規則は、平成26年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成25年度以前の入学生については、改正後の本規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成27年 9 月28日規則第32号）

- 1 この規則は、平成28年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成27年度以前の入学生については、改正後の規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 2 編入学等によって前項ただし書きに規定する学生と同じ学年に入学等を許可された者に係る教育課程の履修については、当該者と同じ学年の者に係る前項の例により取り扱うものとする。

附 則（平成30年 7 月23日規則第31号）（改正 平成31年 3 月18日規則第87号）

- 1 この規則は、平成31年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成30年度以前の入学生については、この規則による改正後の高知大学医学部看護学科授業科目履修規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 編入学等によって前項に規定する学生と同じ学年に入学を許可された者（以下「編入学生」という。）に係る教育課程の履修については、当該者と同じ学年に係る前項の例により取り扱うものとする。ただし、編入学生のうち、教育公務員特例法等の一部を改正する法律（平成28年法律第87号）及び教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令（平成29年文部科学省令第41号）の規定により、これらの規定による改正前の教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施

行規則（昭和29年文部省令第26号）の規定により教育職員免許状授与の所要資格を得ることができる者とされる者以外の者に係る教育職員免許状授与の所要資格を得るための授業科目の履修については、この限りではない。

- 4 転入学等によって平成31年度以降入学生と同じ学年に入学等を許可された者のうち、教育公務員特例法等の一部を改正する法律（平成28年法律第87号）及び教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令（平成29年文部科学省令第41号）の規定により、これらの規定による改正前の教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）の規定により教育職員免許状授与の所要資格を得ることができる者に係る教育職員免許状授与の所要資格を得るための授業科目の履修については、この規則による改正後の高知大学医学部看護学科授業科目履修規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（令和3年2月26日規則第36号）

- 1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。ただし、令和2年度以前の入学生については、改正後の規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 2 編入学等によって前項ただし書きに規定する学生と同じ学年に入学等を許可された者に係る教育課程の履修については、当該者と同じ学年の者に係る前項の例により取り扱うものとする。

附 則（令和3年7月26日規則第14号）

この規則は、令和4年4月1日から施行する。ただし、令和3年度以前の入学生及び編入学等によって令和3年度以前の入学生と同じ学年に入学等を許可された者については、この規則による改正後の高知大学医学部看護学科授業科目履修規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（令和4年3月4日規則第66号）

この規則は、令和4年4月1日から施行する。ただし、令和3年度以前の入学生及び編入学等によって令和3年度以前の入学生と同じ学年に入学等を許可された者については、この規則による改正後の高知大学医学部看護学科授業科目履修規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（令和6年2月26日規則第52号）

この規則は、令和6年4月1日から施行する。ただし、令和5年度以前の入学生及び編入学等によって同学生と同じ学年に入学等を許可された者については、この規則による

改正後の高知大学医学部看護学科授業科目履修規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（令和 6 年 9 月 19 日規則第 35 号）

この規則は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。ただし、令和 6 年度以前の入学生及び編入学等によって同学生と同じ学年に入学等を許可された者については、この規則による改正後の高知大学医学部看護学科授業科目履修規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（令和 7 年 2 月 21 日規則第 69 号）

この規則は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。ただし、令和 6 年度以前の入学生及び編入学等によって同学生と同じ学年に入学等を許可された者については、この規則による改正後の高知大学医学部看護学科授業科目履修規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表 1 教育課程表（看護学コース）（第 2 条、第 3 条第 4 項関係）

区分	細目区分又は分野等	授業科目	修得区分		単位数(総時間数)				卒業要件 単位数
					1 年	2 年	3 年	4 年	
大学 科目 での	大学基礎論	大学基礎論	必	【※1】	2(30)				31
	学問基礎論	学問基礎論	必		2(30)				
	課題探求実践セミナー	課題探求実践セミナー	必		2(30)				
国際 コミュニケーション 科目	基軸英語	大学英語入門	必		2(30)				
		英会話Ⅰ	必		1(30)				
		英会話Ⅱ	必		1(30)				
	国際英語		選						
AI 科目	サイエンス・エタ・	情報とデータリテラシー	必		2(30)				
		データサイエンス入門	必		2(30)				
生きる 力を育 む 科目	生活		選	【※1】					31
	医療・健康・スポーツ	環境保健学	必		1(15)				
			選						
	キャリア形成		選						
	芸術		選						
視野を 広げる 科目	人文・社会科学 系領域	生命倫理学	必		1(15)				
		コミュニケーション論	必		1(15)				
		家族社会学	必		1(15)				
		社会学	必		1(15)				
			選						
	自然科学系領域 複合領域		選						
	基礎医学	身体のしくみ	必	【※2】	4(60)				16
		栄養学	必		1(15)				
		生化学	必		1(15)				
		身体の働き	必		2(30)				
		感染と免疫	必			2(30)			
		薬の効用と看護	必			2(30)			
		看護と病態	必			2(30)			
		病態と治療	必				2(30)		
	健康支援	看護情報論[演]	必		1(30)				7
		健康学習援助論	必		1(15)				
		臨床心理学	必			1(15)			
		保健医療福祉行政論	必				2(30)		
		社会保障論	必					2(30)	
		公衆衛生看護学概論	選			2(30)			
		公衆衛生看護技術論Ⅰ	選			2(30)			
	基礎看護学	基礎看護学概論	必		2(30)				14
		生活援助論[演]	必		2(60)				
		看護倫理	必		1(15)				
		看護理論	必		1(15)				
		治療援助論[演]	必		2(60)				
		ヘルスアセスメント[演]	必			1(30)			
		看護過程論	必			2(30)			
		基礎看護学実習Ⅰ	必		1(45)				
		基礎看護学実習Ⅱ	必			2(90)			

専門科目	地域・在宅看護学	地域看護学	必	【※3】	2 (30)				9	
		在宅看護学概論	必			2 (30)				
		在宅看護援助論[演]	必				2 (60)			
		コミュニティ共生実習	必		1 (45)					
		在宅看護学実習	必				2 (90)			
	成人看護学	成人看護学概論	必			2 (30)				10
		成人看護援助論[演]	必			2 (60)				
		がん看護学とターミナルケア	必				2 (30)			
		成人看護学急性期実習	必				2 (90)			
		成人看護学慢性期実習	必				2 (90)			
	高齢者看護学	高齢者看護学概論	必			2 (30)				7
		高齢者看護援助論[演]	必			2 (60)				
		高齢者看護学実習Ⅰ	必			1 (45)				
		高齢者看護学実習Ⅱ	必				2 (90)			
	小児看護学	小児看護学概論	必			2 (30)				7
		小児看護援助論[演]	必				2 (60)			
		健やか親子実習	必			1 (45)				
		小児看護学実習	必				2 (90)			
	母性看護学	母性看護学概論	必			2 (30)				6
		母性看護援助論[演]	必				2 (60)			
		母性看護学実習	必				2 (90)			
	精神看護学	精神看護学概論	必			2 (30)				6
		精神看護援助論[演]	必				2 (60)			
		精神看護学実習	必				2 (90)			
	統合と実践	医療安全論	必			1 (15)				7
		災害看護学[演]	必						1 (30)	
		看護管理学	必						1 (15)	
		国際看護活動論	必						1 (15)	
		多職種連携・地域生活者支援実習	必						1 (45)	
		統合看護実習	必						2 (90)	
	看護研究	保健統計学	必				2 (30)			5
		看護研究の基礎[演]	必				1 (30)			
		卒業研究[演]	必					2 (60)		
	看護探求	看護データサイエンス	選必			1 (15)				3
		実践看護英語	選必				1 (15)			
		看護先端技術	選必				1 (15)			
		国際援助と保健資源	選必				1 (15)			
		家族看護学	選必				1 (15)			
		保健医療情報学	選必					2 (30)		
		原著講読	選必						2 (30)	
		看護学特別研究	選必				1 (15)			
養護教諭 関連科目	食生活論 【※4】			1 (15)				128		
	養護概説				2 (30)					
	学校保健論					1 (15)				
	産業保健論						1 (15)			
					卒業要件単位数計				128	

- 〔演〕：演習 必：必修科目 選必：選択必修科目 選：選択科目
- 【※1】 選択科目は国際コミュニケーション科目のうち国際英語又は初修外国語・日本語から 1 単位を含め12単位以上修得すること。なお、「スポーツ科学講義」及び「スポーツ科学実技」については合わせて 4 単位を卒業要件単位数に組み入れることができる上限とする。
- 【※2】 看護学コースの卒業要件単位数には含まれない。
- 【※3】 選択必修科目より 3 単位以上修得すること。
- 【※4】 視野を広げる科目の選択科目でもある。

別表2 教育課程表（公衆衛生看護学コース）（第2条、第3条第4項関係）

区分	細目区分又は分野等	授業科目	修得区分		単位数(総時間数)				卒業要件 単位数
					1年	2年	3年	4年	
大学 科目 での	大学基礎論	大学基礎論	必	【※1】	2(30)				31
	学問基礎論	学問基礎論	必		2(30)				
	課題探求実践セミナー	課題探求実践セミナー	必		2(30)				
国際 コミュニケーション 科目	基軸英語	大学英語入門	必		2(30)				
		英会話Ⅰ	必		1(30)				
		英会話Ⅱ	必		1(30)				
	国際英語 初修外国語・日本語		選						
			選						
AI 科目	数 理 ・ エ タ ・	情報とデータリテラシー	必		2(30)				
		データサイエンス入門	必		2(30)				
生きる 力を育 む 科目	生活		選	【※1】					31
	医療・健康・ スポーツ	環境保健学	必		1(15)				
			選						
	キャリア形成		選						
	芸術		選						
視野を 広げる 科目	人文・社会 科学系領域	生命倫理学	必		1(15)				
		コミュニケーション論	必		1(15)				
		家族社会学	必		1(15)				
		社会学	必		1(15)				
			選						
	自然科学系領域 複合領域		選						
	基礎医学	身体のしくみ	必	【※2】	4(60)				16
		栄養学	必		1(15)				
		生化学	必		1(15)				
		身体の働き	必		2(30)				
		感染と免疫	必			2(30)			
		薬の効用と看護	必			2(30)			
		看護と病態	必			2(30)			
		病態と治療	必				2(30)		
	健康支援	看護情報論[演]	必		1(30)				11
		健康学習援助論	必		1(15)				
		臨床心理学	必			1(15)			
		保健医療福祉行政論	必				2(30)		
		社会保障論	必					2(30)	
		公衆衛生看護学概論	必			2(30)			
		公衆衛生看護技術論Ⅰ	必			2(30)			
	基礎看護学	基礎看護学概論	必		2(30)				14
		生活援助論[演]	必		2(60)				
		看護倫理	必		1(15)				
		看護理論	必		1(15)				
		治療援助論[演]	必		2(60)				
		ヘルスアセスメント[演]	必			1(30)			
		看護過程論	必			2(30)			
		基礎看護学実習Ⅰ	必		1(45)				
		基礎看護学実習Ⅱ	必			2(90)			

専門科目	地域・在宅看護学	地域看護学	必	【※3】	2(30)				9
		在宅看護学概論	必			2(30)			
		在宅看護援助論〔演〕	必				2(60)		
		コミュニティ共生実習	必		1(45)				
		在宅看護学実習	必				2(90)		
	成人看護学	成人看護学概論	必			2(30)			10
		成人看護援助論〔演〕	必			2(60)			
		がん看護学とターミナルケア	必				2(30)		
		成人看護学急性期実習	必				2(90)		
		成人看護学慢性期実習	必				2(90)		
	高齢者看護学	高齢者看護学概論	必			2(30)			7
		高齢者看護援助論〔演〕	必			2(60)			
		高齢者看護学実習Ⅰ	必			1(45)			
		高齢者看護学実習Ⅱ	必				2(90)		
	小児看護学	小児看護学概論	必			2(30)			7
		小児看護援助論〔演〕	必				2(60)		
		健やか親子実習	必			1(45)			
		小児看護学実習	必				2(90)		
	母性看護学	母性看護学概論	必			2(30)			6
		母性看護援助論〔演〕	必				2(60)		
		母性看護学実習	必				2(90)		
	精神看護学	精神看護学概論	必			2(30)			6
		精神看護援助論〔演〕	必				2(60)		
		精神看護学実習	必				2(90)		
	統合と実践	医療安全論	必			1(15)			7
		災害看護学〔演〕	必					1(30)	
		看護管理学	必					1(15)	
		国際看護活動論	必					1(15)	
		多職種連携・地域生活者支援実習	必					1(45)	
		統合看護実習	必					2(90)	
	看護研究	保健統計学	必				2(30)		5
		看護研究の基礎〔演〕	必				1(30)		
		卒業研究〔演〕	必					2(60)	
	看護探求	看護データサイエンス	選必	【※2】	1(15)				3
		実践看護英語	選必			1(15)			
		看護先端技術	選必			1(15)			
		国際援助と保健資源	選必			1(15)			
		家族看護学	選必			1(15)			
		保健医療情報学	選必				2(30)		
		原著講読	選必					2(30)	
		看護学特別研究	選必			1(15)			
	保健師資格関連科目	公衆衛生看護技術論Ⅱ	必	【※2】		1(15)			17
		学校保健論	必				1(15)		
		公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	必				2(30)		
		公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	必				2(30)		
		疫学	必				2(30)		
		公衆衛生看護管理論	必					1(15)	
		健康危機管理論	必					1(15)	
		健康課題政策論	必					1(15)	
		産業保健論	必					1(15)	
		公衆衛生看護学実習(行政)	必					4(180)	
		公衆衛生看護学実習(産業・学校)	必					1(45)	
					卒業要件単位数計				149

- 〔演〕：演習　　必：必修科目　　選必：選択必修科目　　選：選択科目
- 【※1】　選択科目は国際コミュニケーション科目のうち国際英語又は初修外国語・日本語から1単位を含め12単位以上修得すること。なお、「スポーツ科学講義」及び「スポーツ科学実技」については合わせて4単位を卒業要件単位の組み合わせることができる上限とする。
- 【※2】　修得していることが、公衆衛生看護学コースへ所属する条件の一つとなる。
- 【※3】　選択必修科目より3単位以上修得すること。

別表 3 進級の認定(看護学科)(第 5 条関係)

時期	対象となる授業科目	単位未修得者に対する措置
1 年次末	1 年次末までに配当された必修科目	留年させ、原則として、未修得必修科目の再履修。 ただし、不合格科目が 1 科目の場合は、授業科目担当者の意見を勘案し、仮進級させることがある。
2 年次末	2 年次末までに配当された必修科目	
3 年次末	3 年次末までに配当された必修科目	留年させ、原則として、未修得必修科目の再履修
4 年次末 (卒業認定)	卒業認定に必要な科目	留年させ、卒業認定に必要な科目の再履修

別表 4 養護に関する科目の履修方法(第 7 条第 1 項第 1 号関係)

免許 教科	養護に関する科目	授業科目	免許法施 行規則上 の最低修 得単位数	単位数		履修上 注意を 要する 科目	備考
				必修 科目	選択 科目		
養護 教諭	衛生学・公衆衛生学 (予防医学を含む。)	保健医療福祉行政論	4	2			衛生学・公衆衛生学
		産業保健論			1	※1	公衆衛生学
		保健統計学		2			公衆衛生学
	学校保健	学校保健論	2	1		※1	
		小児看護学概論		2			
	養護概説	養護概説	2	2		※1	
	健康相談活動の理論・健 康相談活動の方法	精神看護学概論	2	2			
		コミュニケーション論		1			
	栄養学(食品学を含む。)	栄養学	2	1			
		食生活論		1		※2	
	解剖学・生理学	身体のしくみ	2	4			解剖学
		身体の働き		2			生理学
	「微生物学、免疫学、 薬理概論」	感染と免疫	2	2			微生物学
		薬の効用と看護			2		薬理概論
	精神保健	精神看護援助論	2	2			
	看護学(臨床実習及び 救急処置を含む。)	基礎看護学概論	10	2			
		看護倫理			1		
		看護理論			1		
		生活援助論[演]		2			
		治療援助論[演]		2			
		ヘルスアセスメント[演]			1		
		成人看護援助論			2		
		小児看護援助論		2			
		母性看護援助論			2		
		基礎看護学実習Ⅰ		1			
		基礎看護学実習Ⅱ		2			
		成人看護学急性期実習			2		
		成人看護学慢性期実習			2		
		小児看護学実習			2		
		母性看護学実習			2		
		看護管理学			1		
	最低修得単位数		28	35			

＜履修上の注意＞

※1の科目は、別表 1 に規定する看護学コースの教育課程としては、卒業要件外科目（自由科目）である科目を示す。

※2の科目は、別表 1 に規定する看護学コースの教育課程としては、視野を広げる科目の選択科目である科目を示す。

別表5 （第7条第1項第2号関係）

養護教諭一種：教育の基礎的理解に関する科目等の履修方法

科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	●教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ●教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育学・教育課程概論	2
	●教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職入門	2
	●教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2
	●幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学概論	2
	●特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育入門	2
等道徳、 育の相 内談容 等及び 総合的 に及び 関生な す徒学 る指導 科目の 目、時 教間	●道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	道徳教育	2
		総合的な学習の時間・特別活動の指導法	2
	●教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育の方法・技術（情報通信技術の活用を含む）	2
	●生徒指導の理論及び方法	生徒指導(養護)	2
	●教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2
関教 育実 践科 目に	●養護実習	養護実習(事前事後指導含む。)	5
	●教職実践演習	教職実践演習(養護)	2
＜履修上の注意＞			合計
			27

1. 「教育学・教育課程概論」、「教育心理学概論」の2科目は卒業要件単位に含むことができる。

1. 共通教育カリキュラムの概要

《共通教育の範囲》

導入科目群、教養科目群の2つの科目群を「共通教育」と呼びます。「共通教育」は、各学部における高度な専門的学習の基礎を身に付けるとともに、人生や生活を豊かにするための幅広い教養を身に付けたり、自らのキャリア形成を行うための支援を受ける場です。高知大学の全ての学生にとって「共通教育」は重要なカリキュラムとして位置づけられています。共通教育として開講されるそれぞれの授業題目の授業内容とその履修の仕方については、この「履修案内（履修方法）」と「シラバス」をよく読んでください。大学は、自ら主体的に学ぶ場です。必ず履修しなければならないと指定されている授業（必修科目）以外は、皆さんが設定する学びの目標に沿って自由を選択して履修できます。この「履修案内」と「シラバス」を必ず読んで自分の履修計画（時間割）を作ってください。



高知大学シラバス

共通教育で履修する授業科目

科目群	科目区分	細目区分
導入科目群	大学での学びかた科目	大学基礎論
		学問基礎論
		課題探求実践セミナー
	国際コミュニケーション科目	基軸英語
		国際英語
		初修外国語・日本語
	数理・データサイエンス・AI科目	
教養科目群	生きる力を育む科目	生活
		医療・健康・スポーツ
		キャリア形成
		芸術
	視野を広げる科目	人文・社会科学系領域
		自然科学系領域
		複合領域

I. 導入科目群

導入科目群は、「大学での学びかた科目」、「国際コミュニケーション科目」、「数理・データサイエンス・AI科目」の科目区分で構成されています。

皆さんが自ら課題を発見し解決する力や他者とコミュニケーションできる力、そして自身の考え方を主張し表現する力を育むとともに、社会のデジタル化に伴い必要とされる数理・データサイエンス・AIの素養、グローバル社会で活躍するための外国語力を涵養するために設けられたもので、「大学での学びかた科目」、「国際コミュニケーション科目のうち基軸英語」及び「数理・データサイエンス・AI科目」は、高知大学の学生全員（令和6年度以降の理工学部入学生は課題探求実践セミナー（2単位）を除く）が必修です。これらの単位を全て修得しなければ、卒業することができません。

a. 大学での学びかた科目

1. 「大学基礎論」－何をなぜ学ぶのか、どのように学ぶのか、を学ぶ

大学での学習は高校までの学習とは全く異なっています。加えて、大学という場は社会に出て行く準備をする4年間でもあります。そこで、大学基礎論では、次の3つを目標とします。

- ① 大学で学ぶことの意義と目的を考え、「教わる」から「学びとる」へと学びの姿勢を転換する。
- ② 卒業時に自分がどうなっていたいか、どのような能力を身に付けるべきかを考える。
- ③ 社会における大学や学問の位置づけ、高知における高知大学の存在意義について考える。

これらについて考える作業をグループワーク（演習）を通じて行うことで、相手の話をよく聞き理解し、自分の考えを分かり易く伝えるという基本的コミュニケーション能力の向上を図ると同時に、議論の基本的な進行方法と合意形成手法の修得を狙いとします。この授業は、各学部又は学科単位でクラス編成され、それぞれの学部、学科の特色を加味した内容で実施されます。なお、この授業は第1学期に行われます。

2. 「学問基礎論」－専攻する学問の輪郭を学ぶ

皆さんは、幅広い教養と高度な専門知識を身に付けたいという意欲を持って入学されました。しかし、まだそれぞれが専攻する学問についてはその魅力やそれぞれの学問が何を課題にしているか、よくわかっていないと思います。この授業は、各学部、学科、課程等で学ぶそれぞれの学問にふさわしい独自の授業内容が用意されています。皆さんは、各学問の課題や輪郭についての講義を聴き、グループワーク（演習）等によってその内容に対する理解を深める作業を行います。この作業を通じて、専攻する学問の魅力や自分がそれを学ぶ意義を明らかにするとともに、専門教育（学問）に対する学びの展望を構築することになります。

3. 「課題探求実践セミナー」

高知大学における学びの目標の一つは、課題探求能力と問題解決能力を身に付けることです。今日、社会では、さまざまな領域で、身に付けた知識を生かして課題を発見し、それを解決する能力が求められています。これらの能力は、大学4年間の生活、つまり共通教育科目や専門科目における学びや正課外におけるさまざまな自主的活動を通じて身に付けるものですが、この授業では、皆さんが今後の大学生活で身に付けた知識を生かして、課題探求や問題解決に自ら取り組めるようになるために、初歩的な学習を行うことが目的です。

この授業では、各学部、学科等の学問内容に沿って課題探求能力や問題解決能力を養う授業となっています。学部で定められた履修方法に従ってこれらの授業題目から履修してください。

b. 国際コミュニケーション科目 （基軸英語）

1. 「大学英語入門」

本授業は、おもに次の項目の理解及び能力の養成を目的とします。（1）日本語を母語とするものにとって必要とされる英語能力とはどのようなものかについての理解。（2）論文を始めとする英語で書かれた文献（情報）を読解する能力の養成。（3）オーラル・コミュニケーションにおいて必要となる英語の音節の理解とフォニックスを利用した発音の仕組みの理解。

2. 「英会話Ⅰ，Ⅱ」

授業は、ネイティブスピーカー教員（英語を母語とする者または英語圏で成育した者）が担当します。自分の持つ英語力を最大限に利用してコミュニケーションを行い、日常英会話の基礎的能力を身に付けることが目的です。

なお、本授業は第1学期に「英会話Ⅰ」を、第2学期に「英会話Ⅱ」を履修してください。卒業には「Ⅰ」と「Ⅱ」両方の単位が必要です。

(国際英語, 初修外国語・日本語)

英語と初修外国語(ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語<朝鮮語>, スペイン語)の6カ国語および外国人留学生等を対象に日本語を開講しています。それぞれについて, 読解を中心とするもの, 会話を中心とするものなどがあります。授業形態は演習です。外国語の能力を身に付けるとともに, 外国語の学習を通じて, 異なる文化についての理解を深めてください。

c. 数理・データサイエンス・AI科目

1. 「情報とデータリテラシー」

必携ノート型パソコンを使用した講義や実習・演習を通じて, データサイエンス・AIを日常の生活や仕事等の場で使えるようになるための基礎的素養(情報・データ活用の実践力, 情報の科学的理解, 情報社会に参画する態度)について学習します。

2. 「データサイエンス入門」

数理・データサイエンス・AIは, 現在の社会変化に深く関係し, また, それが自らの生活と密接に結びついており, 日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ます。この授業では, 数理・データサイエンス・AIについてのリテラシーレベルの学習内容に対応して, 「社会におけるデータ・AI利活用」, 「データリテラシー」に関連した事項, 「データ・AI利活用における留意事項」について学習します。

II. 教養科目群

この科目群は, 幅広い学問分野にふれるとともに, 現代的なトピックスにも目を向け, 人間として, また社会人としての豊かな教養が育つように, 2つの大分類(「生きる力を育む科目」「視野を広げる科目」と7つの中分類(「生活」「医療・健康・スポーツ」「キャリア形成」「芸術」「人文・社会科学系領域」「自然科学系領域」「複合領域」)で編成されています。**卒業するためにどの科目区分・細目区分から何単位を修得するかは, 各学部で異なっていますので, 各学部の「履修案内」をよく読んでください。**

卒業に必要な単位数

皆さんが, 卒業するために必要な共通教育の最低修得単位数の内訳は, 各学部, 学科等で異なっています。したがって, 共通教育科目の各科目群(導入科目群, 教養科目群)から最低何単位を修得しなければならないか, さらにそれぞれの科目群の科目区分・細目区分から最低何細目区分, 何単位を修得しなければならないのかについて, 各学部の「履修案内」をよく読んで確認してください。また, 各学部, 学科等で行われる履修指導をしっかりと聞いてください。

【高知大学防災インストラクター認定のための条件】

区 分	事 項	内 容	点 数
1	救命救急講習等 (必須) 20 点/1 件	高知大学が主催するもの	各活動に つき 20 点 (上限)
		日本赤十字社が主催するもの	
		各地の消防関係機関などが主催するもの	
2	防災訓練・防災講演会等 (必須) 5～10 点/1 件	各種防災訓練（国，県，市町村，自主防災組織が主催する防災訓練	
		防災学習会，講演会への参加	
		その他	
3	自主的な活動 (内容により判定する。)	例 1：小中学生に対する防災学習	
		例 2：災害データベースの作成	
		例 3：防災マップの作成	
		例 4：防災にかかわるボランティア活動など	
		その他	

■提出書類を評価し 50 点以上であれば高知大学防災インストラクターとして認定

■上記にあげた区分 1・区分 2 については必ず参加してください

■活動内容を証明できる記録を添えて申請してください

■各種情報及び連絡は，教務情報システム (KULAS) に掲載しますので，参考にしてください

(11) 高知大学リテラシーレベル数理・データサイエンス教育プログラム

「数理・データサイエンス教育プログラム」とは？

近年，急速なデジタルトランスフォーメーション(DX)の進展に伴ってデータサイエンスを理解し，扱うことのできる素養をもった人材が社会に望まれています。

高知大学においても，このような素養を身につけた人材を育成するためリテラシーレベルの数理・データサイエンス教育プログラムを令和3年度より開設しました。

令和6年度以降入学生は，必修科目である導入科目群 数理・データサイエンス・AI 科目の「情報とデータリテラシー」および「データサイエンス入門」を修得すれば，本学の数理・データサイエンス（リテラシーレベル）修了者として認定されます。

令和7年度 共通教育科目ナンバリング

学部等名	学科等名	大分類名	中分類	授業形態	言語	ナンバリングコード	授業題目	単位
共通教育	大学での学びかた科目	大学基礎論	-	講義	日本語	04-0110-11	大学基礎論	2
		学問基礎論	-	講義	日本語	04-0120-11	学問基礎論	2
		課題探求実践セミナー	-	演習	日本語	04-0130-21	課題探求実践セミナー	2
	国際コミュニケーション科目	基軸英語	-	演習	日本語	04-0210-21	大学英語入門	2
					英語	04-0210-22	英会話Ⅰ	1
					英語	04-0210-22	英会話Ⅱ	1
		国際英語	-	演習	日本語	04-0220-21	国際英語	2
					英語	04-0220-22	TOEIC英語	2
					英語	04-0220-22	教養英会話	2
		初修外国語・日本語	ドイツ語	演習	日本語	04-0231-21	ドイツ語Ⅰ	2
						04-0231-21	ドイツ語Ⅱ	2
						04-0231-21	ドイツ語A	1
			フランス語	演習	日本語	04-0232-21	フランス語Ⅰ	2
						04-0232-21	フランス語Ⅱ	2
						04-0232-21	フランス語A	1
			中国語	演習	日本語	04-0233-21	中国語Ⅰ	2
						04-0233-21	中国語Ⅱ	2
						04-0233-21	中国語A	1
			韓国語	演習	日本語	04-0234-21	韓国語(朝鮮語)Ⅰ	2
						04-0234-21	韓国語(朝鮮語)Ⅱ	2
						04-0234-21	韓国朝鮮語A	1
			スペイン語	演習	日本語	04-0235-21	スペイン語Ⅰ	2
						04-0235-21	スペイン語Ⅱ	2
			日本語	演習	日本語	04-0236-21	日本語Ⅰ	2
						04-0236-21	日本語Ⅱ	2
						04-0236-21	日本語Ⅲ	2
	数理・データサイエンス・AI科目	-	-	演習	日本語	04-0300-21	情報とデータリテラシー	2
				講義	日本語	04-0300-11	データサイエンス入門	2
	生きる力を育む科目	生活	社会学	講義	日本語	05-0111-11	生命保険を考える	2
			総合社会科学	演習	日本語	05-0111-21	大学生生活スキルトレーニング入門	1
				講義	日本語	05-0112-11	地域活性化について学ぶ	2
							アントレプレナーシップ入門	2
							しあわせ研究入門	2
							よさこい概論	2
							高齢者福祉と地域	1
							大学生のための『安全・安心』の基礎講座	2
		医療・健康・スポーツ	医歯薬学	講義	日本語	05-0121-11	協働実践自己分析	2
							サービスラーニング演習	2
							知の探訪	2
			健康・スポーツ科学	講義	日本語	05-0122-11	一般学生のための医療と医学の知識Ⅰ	2
							一般学生のための医療と医学の知識Ⅱ	2
							スポーツ科学講義A	2
							スポーツ科学講義B	2
							スポーツ科学講義C	2
							スポーツ科学講義D	2
							健康A	2
							健康B	2
							健康C	2
							健康D	2
							アルコール学概論	2
							地域の中で剣道を学ぶ	2
							スポーツ科学講義	2
							環境保健学	1
			実技	実技	日本語	05-0122-51	スポーツ科学実技(硬式テニス)	1
							スポーツ科学実技(体操)	1
							スポーツ科学実技(卓球)	1
							スポーツ科学実技(バドミントン)	1
							スポーツ科学実技(ソフトバレーボール)	1
							スポーツ科学実技(エアロビクス)	1
							スポーツ科学実技(一から学べる筋力トレーニング)	1
							スポーツ科学実技(剣道)	1
							スポーツ科学実技(バスケットボール)	1
							スポーツ科学実技(フットサル)	1
							スポーツ科学実技(ローンボウルズ)	1

令和7年度 共通教育科目ナンバリング

学部等名	学科等名	大分類名	中分類	授業形態	言語	ナンバリングコード	授業科目	単位
共通教育	視野を広げる科目	自然科学系領域	数学	講義	日本語	05-0221-11	数の概念入門	2
							体験する数学	2
							大学数学へのいざない	2
							トポロジーと囲碁	2
							数理の世界	2
							数理科学の世界	2
							数理科学の展開	2
							和算の世界	1
			物理学	講義	日本語	05-0222-11	物理学入門	1
							スペクトル	1
							身の回りの放射線	1
			化学	講義	日本語	05-0223-11	法化学概論	2
							物質の科学	2
							化学入門	1
			生物学	講義	日本語	05-0224-11	渚の自然史	2
							海洋と生命の科学	2
							生物学入門	1
							細胞構造と代謝	2
							タンパク質で生命を斬る	2
				実習	日本語	05-0224-41	昆虫と環境	1
							海洋生物学基礎実習	2
			地学	講義	日本語	05-0225-11	大地の災害	2
							地震の災害	2
							気象と波の災害	2
							災害と生きる	2
							地球科学入門	1
							四国の自然環境と防災 その1	1
							四国の自然環境と防災 その2	1
							災害とデータサイエンス	1
			情報学	講義	日本語	05-0226-11	データサイエンスを活用した防災・危機管理	1
							さわってわかるAI講座～基礎理論からクラウドサービスを使った実践まで～	2
							データ解析プログラミング入門	2
							インタフェースデザイン概論	1
							コンピュータと教育 その1	1
							コンピュータと教育 その2	1
							情報のいろは	2
							高度情報化社会の歩き方	1
							学校とICT教育	1
							レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション	1
							体験的に学ぶ生成AI	1
				演習	日本語	05-0226-21	初等プログラミング入門	2
							データサイエンス実践課題演習	2
			工学	講義	日本語	05-0227-11	デジタルものづくり入門	1
			農学	講義	日本語	05-0228-11	フードサイエンスの世界	2
							海洋を考える	2
							高知の最先端の農業IoT入門セミナー	2
							地域の農林資源と環境科学	2
							土佐の自然と農林業	2
							太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	1
				演習	日本語	05-0228-21	データ農業をやってみよう！IoTサマースクール	2
							次世代農業を感じてみよう！IoTスプリングスクール	1
			総合自然科学	講義	日本語	05-0229-11	ライフサイエンスの世界	2
							雨粒は何故、競争しないのか？	1
							社会を変えた科学・生物学	2
							私たちの生活と材料	1
							人工漁礁の開発と環境保全	1
							現代科学と研究倫理	2
							飛行機はなぜ飛ぶのか	1
							データ活用とオープンイノベーションで創る未来のまちづくり	1

大学等名	高知大学（医学部）	申請レベル	応用基礎レベル（学部・学科等单位）
教育プログラム名	高知大学医学部 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 応用基礎レベル	申請年度	令和7年度

取組概要

高知大学医学部は、医療DXを推進するため、数理・データサイエンス・AIの課題を理解し、倫理的に正しく利用する医療人材を育成することを目指し、2025年4月より本教育プログラムを策定しました。

身に付けられる能力

医療DXを推進する人材を育成するため、

- 体系的な基礎知識とプログラミング基礎技術
- 医療分野の応用事例や将来展望に関する知識の習得を行うプログラム構成となっています。

修了要件

前提：リテラシーレベルプログラム修了
医学科：（旧：R7入学生）6科目8単位の習得
（新：R8～入学生）4科目6単位の習得
看護学科：4科目7単位の習得

	医学科科目		共通科目	看護学科科目
1年次	旧	数理科学I、 数理科学II、 EBMI	データ解析プログラミング入門	データサイエンス入門、 看護データサイエンス
2年次		基礎社会医学		
3年次		EBMII		保健統計学

各学科において全ての科目の習得が修了要件

実施責任者：医学部長

改善・進化させるための体制：医学部学務委員会、自己点検・評価のための組織：医学部学務委員会